

目次

特集●中学生の言語	深谷昌志	2
調査レポート●中学生の話し言葉	深谷昌志	9
要約とまとめ		10
第I章 子どもたちの言葉づかい		11
1. 方法論を中心に		11
2. カセットで言葉を収録		12
第II章 ケース・レポートの中から		13
1 言いたいことはわかるが……／雑談の中で	飯川由美子	13
2 先生たち、わかってないよね／やっぱり、とんねるず	鈴木秀男	16
3 言葉の中にも見える成長	長嶋安男	20
4 言葉は心の窓	森永徳一	22
5 週番集合で……／クラブ活動の前に	伊藤澄生	25
6 明菜ちゃんのサイン——真実はいかに？／気にいらぬやつ	李 淑娟	27
第III章 アンケート調査から		30
1. 言葉づかいは悪いか		30
2. 流行語をつかうか		34
3. 流行語への評価		42
まとめに代えて		47
資料1 調査票見本および集計表		48

※おことわり：本文中に使用した写真は本文・テーマとはいっさい関係ありません。

---

## 特集

# 中学生の言語

放送大学教授 深谷昌志



### マスメディアとのかかわり

近ごろの若者や子どもの言葉が乱れている。いつの時代でも、若者や子どもはそう言われてきた。それだけに、「近ごろの子ども」（あるいは若者）の言葉づかいになげかわしさを感ずるのは、言っている本人が老化している証しといえなくもない。少なくとも時代の流

れから遅れかけているのは否定できない。

そう思うので、「近ごろの子ども」と言いたくはないのだが、それでも、何かのときに子どもたちの言葉にハッと、そしてなげかわしく思うことが少なくない。

そこで、子どもたちの言葉のどこを乱れと感じるのか、その背景を考えてみることにしよう。



まず、テレビなどからの影響が目につく。「……ていいかな」「いいとも」、あるいは、「ほとんどビョーキ」、そして、「ザンゲ」「スゴイデスネ」などが、その一例であろう。もちろんこれらは、タモリや所ジョージなどのつかったものだが、子どもたちはそうした用語に敏感に反応する。

もっとも、テレビに子どもが反応するのは今に始まったことではない。月光仮面や鉄人28号をまねて遊び回ったなどというのは古すぎるにしても、テレビドラマ『男嫌い』（昭和38年）の「かもね」「まあね」「そのようよ」などは、若い女性たちの心をとらえていたし、植木等の「お呼びでない。失礼しました」も、男子学生の間にはやったことがあった。「なんである、アイデアル」や「ファイトでいこう」「いいと思うよ」「おめえ、へソねえじゃないか」なども、昭和30年代の後半にCMとしてヒットし、子どもたちの間でつかわれていた。

そうした意味では、なにかの失敗をした子をザンゲとはやしたてる子の姿に、今も昔も変わりはないのかもしれない。というより全体としてみると、それでもテレビの影響は薄れており、小学高学年生はともあれ、中学生ではテレビのCMなどをよほどうまくつかわないと、それこそダサくて、イモッポイ子と言われかねない。それと同時に、マスメディアがらみの流行語は、あつという間に広まるかわりに、すぐに鮮度が落ちる。

それだけに、新しい感覚の言葉に敏感に反

応し、そして古さを感じ始めると、いちはやく捨てざる。今の子どもにとって、テレビは日常生活の一部となっており、それだけに新鮮な感動を与えにくいのもかもしれない。したがって、マスメディアからの影響は、そのときどきの一過性のもので、おとなが思うほど子どもたちの心に傷を残さないように考えられる。

## 規範感覚の崩れ

しかし、マスメディアからの直接的な影響は薄れるといっても、子どもたちは毎日2時間半もテレビとのつきあいに時を過ごしている。したがってテレビの影響は、直接的に目に見えなくとも、じわじわとした形で子どもの心を変えていく可能性が強い。

「あの子と結婚するんだ」や「あの子、また、浮気してる」などと話しているのを耳にすることが多い。もちろん文字通りの結婚でも浮気でもなく、言葉だけが先行しているのだが、そのあたりにもホームドラマの見すぎの影が感じられる。

考えてみると、『ドッキリカメラ』や『オレたちひょうきん族』などでは、下ネタを乱発したり、どぎついイタズラをシャレでごまかす。あるいは、まじめさをちやかす場面などを見かける。道学者のように道を説く気はないが、それでもテレビを見ている内に、子どもたちの価値観が崩れ、社会的な規範感覚が甘くなるのではないかという気がする。

チャリンコ（自転車）やグラサン（サンク



ラス)、ガ克蘭 (学生服)、ヤバイ、シャコタン (改造車) などは、一昔前まで、ツッパっている子が誇らしげにつかっている言葉だった。マッポ (警察官)、ソリを入れる (ひたいをカミソリでそり上げる)、フケル (逃げる)、チクル (密告する、いいつける) もその一例だが、今ではそうした単語がごくふつうの生徒の口からとび出してくる。したがって、シカトする (無視する) という言葉をつかっているからといって、その子がグレているわけではないというのが現状となる。

このように、言葉の面での非行感覚のまひや規範意識の崩れが目につくが、それがすべてマスコミのもたらしたものであるというのは誇張にすぎよう。しかし、「〇〇菌」(菌の前に名前をつける、そしてうつるとか伝染するとかいって、その子を仲間はずれにしていく) や顔チフス、ふけつなどとはやしたてて、いじめめる子どもたちの態度の底流に、『オレたちひょうきん族』や『ドッキリカメラ』の影が感じられてならない。

とはいっても、言葉のどぎつさや荒さの割に、子どもたちの心の内が変わっていないのもたしかで、見方によると子どもたちはちょっとしたスリルを求めて、非行がかった言葉やマスコミの用語をつかっているといえなくもない。したがって、ピーマンやらローフク (母親)、シータク (タクシー) と話している子の感覚が、心の内から崩れさっているのか、それとも表面的な変化を求めただけなのかは識別しておく必要がある。

## 流行語とのつきあい方

子どもたちに、流行感覚についての調査を行ったことがある。その中で、言葉に関してもいくつかの質問を試みているので、その結果を紹介してみよう。

●「あなたは、テレビではやっているような言葉をよくつかいますか」

① とてもよくつかう	16%	} 67%
② わりとつかう	51%	
③ あまりつかわない	28%	} 33%
④ ぜんぜんつかわない	5%	

●「それでは、そうした言葉を、あなたはクラスの中で、なん番目くらいに早くつかっていますか」

① いちばん早く	5%	} 34%
② とても早く	29%	
③ やや早く	49%	} 17%
④ やや遅く	11%	
⑤ ずっと遅く	6%	

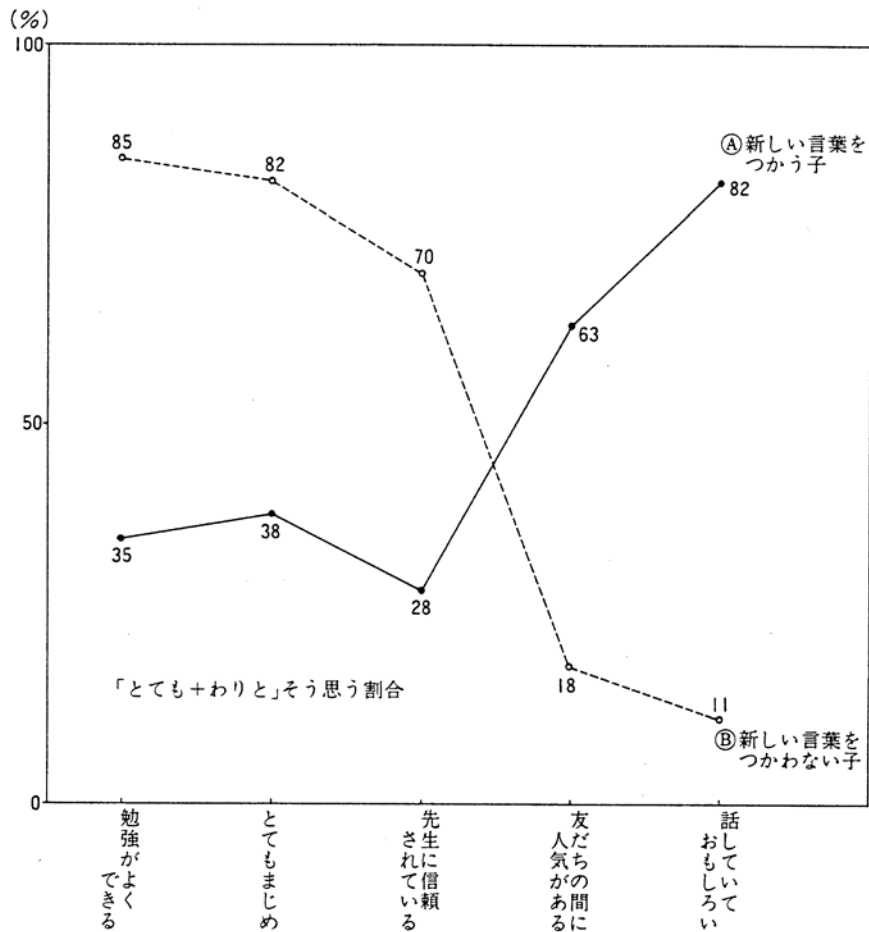
子どもたちは、テレビのCMなどで耳にする言葉を「とても早く」でないにせよ、「わりと」つかっているという。そうした意味で、子どもは新しい言葉を、特に好きというわけではないが、かといって反発も示していない。つまり、人より遅れず、少し早めに、ほどよくつかうのが、新しい言葉とのつきあい方だという。

そこで子どもたちに、**Ⓐ**「テレビなどではやっている言葉を、クラスの中でいちばん早くつかう子」と、**Ⓑ**「はやっている言葉をつ

かおうとしない子」とをイメージさせて、その子がどんな子なのかを推定させると、図のような結果が得られる。

流行語をつかわない子は、まじめで勉強がよくでき、先生から信頼されているかもしれないが、おもしろみに欠け、友だちの間での

新しい言葉をつかう子とつかわない子(小学生)



人気が低い。それに反し、流行語をいち早くつかう子は、話していてもおもしろいし、友だちからの人気があるかもしれないが、まじめさに欠け、成績もいまひとつだろうという。

●「あなたは、次のような子と友だちになりたいと思いますか」

	①流行語を早くつかう子	②流行語をつかわない子
①友だちになりたい	9%	6%
②友だちになってもいい	46%	60%
③あまりなりたくない	36%	29%
④ぜんぜんなりたくない	9%	5%

こうしたデータを重ね合わせていくと、流行語についての子もたちの感じ方が明瞭になる。早すぎもせず、そうかといって肩ひじをはって拒絶するのでもなく、友だちに遅れないようにほどよくつかっていくのが、流行語との対応の仕方だという。流れを作る必要はないが、逆らうこともヤボだ。流れの中に身を置く草枕の心境なのであろうか。

10年ほど前に、健康によいとかいいうので紅茶キノコが流行したことがあった。その後に、脂肪をとるとかいいう中国茶もはやった。さらにこのところ、ショーチュウ・ブーム、さらに肉を食べないベジタリアンの動きが目につく。

こうした現象に仕掛人がいるとは思いますが、ブームがまきおこると仕掛人のおもわくを越えて、パニック状態になる。しかし、ブームがピークを越えたとたん、引き潮にも似た速さで、冷却していく。

そうした言い方をするなら、紅茶キノコに限らずエアロビックやジョギング、さらにこのところの禁煙ブームも、マスメディア社会のもたらしたブームの一種といえなくもない。

話題を流行語へ戻そう。子どもたちの流行語も、子どもの心をいっときは捉えるもののすぐに衰退し、また新しい言葉にとってかわる。言語の背景に、そうした新陳代謝の過程を考えると、理解しやすい気がする。

## 言語面でのワンパターン化

そうはいっても、子どもたちの言語の乱れを、一過性とよぶにしては、もう少し底が深い感じがする。

このところ若い人の中で、手紙を書く習慣が崩れている。手紙より電話の時代とかで、恋人相互の間でも、恋文は死語に近くなってしまったらしい。もちろん、その他の機会に手紙を書くこともないから、子どもや若者にとって自分から文字を使う機会は、勉強のときくらいに限られてくる。

そうした現象を文字文化の衰退と名づけられようが、それでも中学生の女子などの間で、交換日記が行われていると聞く。このモノグラフシリーズでも、「交換日記」についてまとめたことがあるが、交換日記を知らない人のために補足しておくなら、多くの場合、カラフルなイラストが描かれていて、その中に、いわゆるマンガ字で、文章がちらしてある。したがって、「そういえば、もうすぐ期末だ」も、二行にわたって書かれている。さらに、

「期末」の文字が他の何倍もの大ききで、しかもピンクのイラスト風のタッチで描かれているので、「期末」が目にとびこんでくる感じになる。

いずれにせよ交換日記のトーンは、全体として話し言葉に近い。「だから、……もう、山本先輩のこと、好きじゃなくなったのです」や「さっそくだけど、前田先輩とはデキテないんだ。ただワタシメが、いっぼうてきなだけ」「ねむいんだ。だから、きょうはこれくらい。また、あした、かくから。おやすみ」などは、そのまま話し言葉になる。

そうした形で、書き言葉が話し言葉に近づいてくる。言語学の専門家ではないので、書き言葉の衰退が、言語文化の中でどういう意味を持つのかはわからない。しかし、書き言葉がなくなって、話し言葉に吸収される。その結果として言語が単純になるのだろうか。

そういえば、交換日記の中に見られるように、女の子の間で、「ボク」などのような男の子の言葉をつかう子が増加している。というより、「テメエ、ナマイキダヨ」や「ヤキライレルゾ」と、時として男の子より荒い言葉づかいをする女の子も見受けられる。したがって、衰退しているのは書き言葉だけではなく、女の子の言葉も影を薄め、話し言葉はユニセックス化の傾向をたどっている。

さらに、すでにふれた通り、まともといわれる子の間に、ツッパリの子のついていた単語が浸透し、ツッパリとノン・ツッパリとの間のケジメが失われつつある。加えて、地

域ごとの言葉が聞こえなくなり、どの子も共通語を話す時代を迎えている。

このように、子どもたちの間で書き言葉と話し言葉、男言葉と女言葉、そして、ツッパリとノン・ツッパリなどの境界が失われ、ワンパターン化の傾向が強まっている。そうした動向に、方言の喪失も加わるので、言語面での規格化や画一化が、より一層顕著になり始める。

同じようなテレビや新聞、雑誌などに接して育っているのであるから、ものの見方や考え方が似通ってくる。情報化された大衆社会の中では、言葉もその例にもれず、画一化の道をたどる。そうしたワンパターン化に対する反発として、新しい言葉を求める気持ちが強くなるが、すでにふれた通り、流行語も皮肉なことにみんながとびついてつかい、そしてあっという間に鮮度が落ち、つかい棄てられる運命になる。

地域差や性差を越えて、言葉がひとつの形に集約され、その傾向が書き言葉の話し言葉化を招く。いわばそうした形で言語のワンパターン化が進むことは、言語面での進化なのか退化なのかはわかりにくい。しかしいずれにせよ、複雑でデリケートなものから単純でより記号化されたものへと、言葉が変化している。

## 言語面での退化

教師たちと話していると、生徒たちの「ネ・サ・ヨ言葉」に手をやいている事例があがっ

てくる。「それでネエ、あいつがサア、やったからヨオ」と、語尾を伸ばす感じで、区切りごとに、ネ・サ・ヨをつける。本来は、友だちの間での親しみをこめてつかう言い方であったのが、ネ・サ・ヨが授業の中でも顔を出し始める。それが「……がサア」「……がヨオ」と、語尾を強めるので、なんとも聞きとりにくい。

そうかと思うと、「あいつ、ひでえんだ」「みんな、げんき」のように助詞なしで、単語を並べるだけの話し方も増加している。

さらに、特に女の子たちは、「うそおー」「ほんとおー」を乱発する。しかも小学生から大学生、さらにOLまで、「うそおー」をくり返す。そうした意味では、言葉のワンパターン化の中に、年齢差を越えてという一項目を加える必要があるのかもしれない。

先のふたつの他に、「かあわゆい」「ばっかみたい」「きいもちわる」「すごい」あたりを揃えると、女の子の会話のレパートリーが揃う。もっとも、このところ、男の子の言葉も、女の子化しているので、「さいこう」「ひんしゅく」などの間に、「きいもちわる」が入ってくる。

これらに共通しているのは、パターン化した感嘆詞で、反応をしめくくる態度であろう。したがってそこには、論理もなければ、その子なりの感情も見いだしにくい。「ばっかみ

たい」と言ってしまうと、それがすべてとなる。

そうした形で、反応を省略した言い方に、「べつに」というのがある。「……する？」の問いに、「べつに（どうでもいい）」で答える。そのことに気がのと、「もち（ろん）」で、残りは「べつに」となるので、二語であらかたの話のかたがつく。

こうした傾向を重ね合わせていくと、先にふれた言語面でのワンパターン化が、助詞抜き、きまりきった感嘆詞、主語や述語の省略などと連動しているのに気づく。その結果として子どもたちのつかうボキャブラリーは少なくなり、デリケートな言い方もへる。地域性や性差の喪失、敬語の消滅なども、これらを言葉の退化という面で捉えると理解しやすい。

言語面での退化が、こうしたテンポで進むと、その内勉強などの場面ではともあれ、遊んでいるときには、ボディランゲージが主流で、それに、「さいこう」「きらい」を加えるくらいになる。そして、書き言葉だけでなく、話し言葉も消滅するのではという嫌な予感がしてくる。先回りをして、問題を指摘してしまったのかもしれない。以下、中学生を対象としたデータをもとに、中学生の言語生活を紹介することにしたい。



## 調査レポート

# 中学生の話し言葉

放送大学教授 深谷昌志  
モノグラフ同人 長嶋安男  
鈴木秀男  
森永徳一  
岡崎友典  
伊藤澄生  
飯川由美子  
李淑娟

### 〔調査概要〕

対象●東京都・長野県・岐阜県の公立中学校  
5校（首都圏・地方都市部・山間部に  
わたる）の1～3年生  
期間●昭和62年6～7月  
方法●学校通しによる質問紙調査

サンプル数 (人)

	男子	女子	計
1年	214	233	447
2年	231	206	437
3年	159	178	337
計	604	617	1,221

## ●要約とまとめ

### ① 言葉づかい

「あまりよくない」と思っている子が46.6%と半数に近い。よいとはいえない(7.9%)が、「ぜんぜんよくない」(6.9%)とも思わない。「あまりよくない」程度だという(P.31表1)。

### ② 敬語をつかえるか

「あまりうまくつかえない」が34.7%、「ややうまくつかえる」が47.0%である。十分つかえるとはいえないが、つかえないことはない、生徒は思っている(P.32図1)。

### ③ 友だちの言葉づかい

男子、女子ともに、友だちの言葉は「やや乱れている」との評価がほぼ半数を占める。(P.33表3)

### ④ 流行語をつかうか

「早くつかう」子は16.8%、「つかわない」子は18.4%で、「ふつうくらいにつかう」子が多い(P.34図3)。

### ⑤ つかっている流行語

「やばい」「やっぱ」がつかわれているが、その他の「マブい」「まじぼん」などはあまりつかわれていなかった(P.36図4)。

### ⑥ 流行語の感じ方

流行語をつかったからといって、「カッコいい」「シャレている」とも思わない。といって、つかわないほうがよいとも思わない。流

行語への感覚はクールである(P.40表6)。

### ⑦ 流行語を持ち込む子

服装のセンスはよいかもしれないが、まじめさに欠け、努力するタイプではないだろうという(P.42図8)。

### ⑧ 流行語をつかわない子

「まじめな努力家」か「生活がきちんとしている」と、子どもたちは考えている(P.44図9)。

### ⑨ 言葉づかいの荒い子

スポーツが得意かもしれないが、ツッパっている子どもだろう(P.45図11)。

## まとめ

言葉づかいはその子のまじめさを示す、と生徒たちは考えている。それだけに、ふまじめなのもいやだが、まじめすぎるとおそれたくない。ほどほどのまじめさにあこがれるので、流行の言葉をつかうときも人より早すぎず、かといって遅すぎずにを心がける。

生徒たちは思っているより健全な感覚を言葉について示していた。ほっとしたのもたしかだが、そうはいても生徒たちの言葉づかいが乱雑すぎるのも否定できない。今の程度は人並みと思っている内に、全体の流れにまきこまれて乱れすぎてしまうこともあろう。それだけに、言葉づかいについての健全な感覚を生徒たちの中に育てていくことが望まれよう。

# 第 I 章 子どもたちの言葉づかい



## 1. 方法論を中心に

このモノグラフシリーズは、毎月、同人の先生たちと研究会を持ち、テーマを決め、調査票を作成して、調査を実施する手続きをふんでいる。もちろん月例会でやれることには限りがあるので、先生方相互のこまかな打ち合わせなどを入れると、かなりの仕事量となる。

それはともかく、そうした手続きをたどるので、テーマを決めるのはレポートが刊行されるほぼ2年前になる。逆にいうと、現在しぼり始めているテーマが日の目を見るのは2年後になるので、それだけにテーマの設定には慎重にならざるを得ない。

中学生の言葉づかいを調べようとしたのは、

通例の2年よりもう少し以前のことになる。月例会の折、生徒たちの言葉づかいの乱れが問題になった。女の子の言葉づかいがひどい。ツッパリの子とふつうの子との言葉の面での区別がつかなくなった。あるいは、上級生と下級生との間の言葉づかいをもう少し友だち同士のような感じにできないか。そういえば、教師の言葉づかいもひどい気がするなど、次々に問題が提起され、活発な議論に花が咲いた。

それでは、次の例会までに身近な生徒たちの言葉づかいを集めてみようということになり、それぞれの先生が1か月の観察時間を持った。1か月後の例会も各人が集めてきた言

言葉づかいの資料でにぎやかだった。

そして、あらためて言葉づかいを考えてみようということになり、正式に調査テーマに

決めた。昭和61年の7月頃だったような気がする。

## 2. カセットで言葉を収録

そこまではよかったのだが、話し言葉をどう捉えたらよいか問題になった。アンケート調査の形だと、動きがとまってしまう、話し言葉に迫れない感じがする。そこで、それぞれの先生がカセットを持って、子どもたちの声を録音してみようということになった。

幸い、このところ小さなカセットが発売されているので、子どもの生の声をとりやすいと思った。そこで、それぞれの先生が授業や昼休み、部活動、ホームルームなどの音をひろうことにした。

しかし、実際に音をとってみると、アマチュアの悲しさで、教室は思っている以上にさまざまな音がして、子どもの声を聴きとりにくかった。まして、休み時間は騒音のつぼという感じで、ひとりひとりの子どもたちの話し言葉を弁別するのは不可能に近かった。

さらに、カセットに録音したものを耳で聴くときは4～5分のもので、これを原稿に直すときかなりの量になる。それだけでなく、話し言葉の持っている勢いや雰囲気失われる。

したがって、カセットに子どもの声を収録するのが、必ずしもベストでないことに気づいた。そこで、マクロな傾向はアンケートに頼ることとし、それとは別にミクロな傾向は事例研究の形で、子どもの声を収録してまとめるという2つの方法を併用し、レポートをまとめることにした。

なお、収録にあたって、それぞれの先生の個性に応じて、その先生のスタイルで、子どもの声をとろうということにした。その結果、ある先生はマイクを向け、子どもたちに事情

を話して、雑談してもらったし、別の先生は、ひとりの子の胸にカセットを入れ、その子を中心にまわりの子の話し言葉をとることにした。また、アイスクリーム屋の店先で子どもたちの声を集めた先生もいた。

何回かの試行錯誤の末に、その先生なりに今の子どもたちの話し言葉をつかもうとした努力が、第II章にもりこまれたケース・レポートである。

正直なところ、こうした方法論をとってみると、子どもたちの話し言葉がそれほど乱れていないことに気づいた。かなり悪い言葉づかいをしているのではと思い、生の声をとり始めたのだが、よいとはいえないのはむしろのことだが、だからといって悪い言葉ばかりともいいにくかった。

もちろん、マイクを通しての収録なので、子どもたちがよそよそしい言葉づかいをした可能性も考えられる。しかし、長い場合は2時間以上にもわたってテープを回しているのは、はじめの20分くらいはともかく、やがてふだんのままの話し言葉に戻る。今回のレポートでは、そうした内容のものを紹介してある。

したがって、子どもたちが悪い言葉づかいをしていると思って調べると、それほど悪くはないが、かといって一昔前の言葉づかいともちがう。軽くて、フィーリングを託す感じの言葉づかいがふえているのであろう。

アンケート調査の結果を紹介するに先だって、子どもたちの言葉づかいの背景について、特集で若干の考察を加えてあるので、そちらも合わせてごらんいただきたい。

## 第II章 ケース・レポートの中から

### ■ ケース・レポート 1

東京都東久留米市立西中学校教諭 飯川由美子

#### 言いたいことはわかるが……

●時 間 清掃時間

●場 所 教室

●状 況

No.1 前日の廊下掃除がきれいに行われていなかったの、特に当日はしっかり清掃するよう教師が注意をした。教師は、当番の者に声をかけているが、答えるのは関係のない者ばかりである。

No.2 教室掃除はきれいに行われていたが、男子がさぼったというので、わざと全員でやったか、教師がたずねた。さぼった当人が「ひとり来ない」と答えたので、女子が責めていたが、突然、廊下掃除の話で、会話は終わった。学活後なので、教室内には清掃当番でない者も多く、にぎやかであった。

●会 話

No.1 教師 廊下 廊下 ちゃんとやって。

A子 あたし 廊下じゃないもん。

B子 あたし 掃除じゃないもん。

教師 ちがうの？ 掃除じゃないの。

A子 でもね……。

B子 オカ（友人の名前）のてつだってあげるの。

教師 じゃあ 廊下てつだって。

A子 オカは？

オカ はい。

B子 あっ いた。

No.2 教師 今週の教室掃除 とってもきれいで とってもいいですね もちろん 全員でやっているんでしょうね。

A男 ひとり来ないヤツがいる。

教師 ひとり？ ひとりだけ？

B子 ひとりだけ？

教師 ひとりだけ？

B子 あれ？

C子 えっ？

B子 ひとりだけ？  
 教師 ひとりだけですか？  
 B子 あっきのう廊下やってないからあたしがやったんだよ。  
 教師 どうもありがとうございました。  
 B子 えらいなあ。  
 (まわりで、廊下は「岩田君たちだ」と言っている。)  
 教師 岩田ね はいわかりました 岩田君たちきのうは……。

- 印 象 No.1もNo.2も、主語も目的語もない会話である。これで何が言いたいのか、お互い  
 にわかるから不思議である。この時は、教師も比較的きれいな言葉をつかっている。そ  
 れでも生徒は、友だち言葉で教師に話しかけたり、答えたりしている。教師と生徒との  
 間に、敬語はもちろんていねい語さえなかなか見られない。放課後や休み時間にはいい  
 かもしれないが、職員室でも授業中でも同じである。このままでは、ていねい語すら知  
 らない生徒がふえるのではないだろうか。

### 雑談の中で

- 時 間 期末テスト最終日の放課後
- 場 所 調理室
- 状 況 期末テストの最終日。明日の調理実習(五目ずし)のため、2年生2クラスが、班ごと  
 に準備をしている。家庭科は男女共修である。準備のために60人近くの生徒が入り乱れ、  
 大変なさわぎである。米を班の人数分はかっておくことになっていたが、他の班より倍近  
 く米を用意している班があったので、はかり直すよう指示した。その班の男子生徒との  
 会話である。実際にはざわざわがやがや、口々に生徒が質問している状態なので、間が  
 あったり、他生徒との会話、注意なども入っている。この男子生徒は、ふだんから比較  
 的ていねいな言葉を話す生徒である。
- 会 話 教師 これ多いよ 同じ班？  
 A男 4班です。  
 教師 4班？  
 A男 イクヤ オオツキ。(班長の名前)
- 教師 でねえ これ 多いよ ぜんぜん。  
 A男 多いかなあ。  
 教師 ぜんぜん 多いよ いったい何gだか はかってきてごらん ほら あ はかっ  
 てやるから もってきてごらん あれ。  
 (A男が4班の調理台から米をもってくる。)  
 ほら みてごらん 700もあるんだよ ほら たいへんだよ はい もっておいで。  
 A男 1人65gだから 65×6で ゴロクサンジュー ロクロクサンジューロクで390。  
 教師 390でしょ ちょっと なんか入れ物もってらっしゃい いれもの(他の生徒に  
 向かって)できたところは 報告して帰ってよ。  
 A男 はあい なあに(友だちに何か言われて)  
 やっぱり390です。  
 教師 (米をはかっていて、返事をしない。)
- A男 ところで先生 あの R先生 みんなからさあ あの家庭科のなんだっけ くい

もんもらえなくて 何かいってました？  
教師 いってないわよ そんなこと。  
A男 いってない？  
教師 いってない あなたR先生が そんなにセコイ先生だと思う？  
A男 うーん。  
教師 はい。  
A男 えっ これが？  
教師 これが あなたたちの分。

(他の生徒に向かって) B Bたちの分 何g？

- 印 象 本当は、あまり紹介したくない例である。教師の言葉も悪いし、文章になっていない部分もある。これだけを読まれたら、批判されても、仕方ないと自分でも思っている。テープで聴いていただくと、その騒がしさがわかっていただけるのだが。
- ていねいな言葉で対応する暇がない、といったら言い訳のようだが、生徒との日常の会話は、だいたいこのようなものである。生徒の言葉づかいには、もっとひどいものもある。あまりになれなれしい場合や、職員室、授業中以外ほとんど、注意をしない。言葉づかいからていねいに直していたら、学習する時間など、なくなるのではないだろうか。

●全体の感想

「言葉」の乱れが騒がれている。確かに、生徒と接していても、「言葉」が気になる。乱暴である。隠語をつかう。それもそうであるが、不自然さが気になるのである。

大声で乱暴に話すことが、明るく、男っぽく、まるで今の流行だと考えているような女子生徒。話す内容は単語に近く、自分の意志、状況の説明すらできない男子生徒。価値観の変化、過保護の弊害……「なんか変だな」という感じである。

たとえば、親、教師を含め、おとなの中にも子どもと同じ言葉をつかったり、多少乱暴に言ったほうが、今流にいう「うける」と考える者がいる。つまり若者に対して、理解がある、親しみがあると思込んでいるようだ。ときどき、ラジオ、テレビのインタビューなどでも、わざとらしく話すアナウンサーがいる。素人っぽさを、逆にマネているような感じの人が。

「言葉」はむずかしい。地方に行けば、誰の言葉づかいも乱暴のように受けとれるところもある。祖母は自分のことを「オレ」という。だから、「オレ」という言葉の善し悪しではなく、つかい方、つかう気持ちの善し悪しが大切なのだと思う。私自身、事例の通り言葉も乱暴だし、生徒に言い直しをさせることもできないでいる。時間的にゆとりがない。その点は、深く反省し、これから気をつけなければと考えている。

だが、先にも述べた通り、もっと深い部分での「言葉」がやはり気になるのである。言葉の背景や意味、そしてつかうものの心、気持ちが、メチャクチャという気がする。「言葉」は、相手を思いやり、そして、自分の意志を伝える大切な道具なのだとすることが、忘れられているように思える。

## ■ ケース・レポート 2

東京都小平市立小平第四中学校教諭 鈴木秀男

### 先生たち、わかってないよね

- 時 間 放課後
- 場 所 用務主事室
- 状 況 思うように生きた会話をひろえないので、クラスの女子生徒におしゃべりしている様子を録音してもらえるかどうか相談してみた。予期に反し、快く引き受けてくれた。はじめは録音していることを意識して、ぎこちない感じであった。そこで「じゃ、しばらく適当に話してみよ。学校のことで、友だちのことで、何でもいいから」と言って、私はわざと部屋を出た。こうして録音された以下の会話は、ほぼ現実の調子に近いと思う。ちなみにこの生徒たちはクラスの仲良し5名で、成績面ではたまたま上から下までそろっている。
- 会 話
- A子 B中の制服ってださくない？
- B子 ネクタイがさー 苦しいしさ。
- A子 そうだね 丸えりだったらいいと思わない？
- C子 プレザーみたいにえりがあったほうがいいよね。
- D子 スカートの長さが……。
- B子 ひざ上にするとおこるしね ひざ下とか……おこるしね。
- A子 そー そー そー 長すぎても 短すぎても だめなんだもん どちらかにしてよ。
- A子 あいつ おこるじゃん。  
(こうして不満ばかり出てくる。そして突然)
- A子 勝手だよな 先生って。
- B子 だってさ 服装乱してさ 先生に迷惑かけてるわけじゃないと思わない？
- A子 そうだよ……中学生らしかったらいいと思わない はっきり言って。
- B子 中学生らしいって どういうことなのか君たちはわかっているのかって言いたくなるよ。
- A子 そうだよな。
- C子 先生たちって わかってないよね。
- D子 むずかしいと思うね 中学生らしいって言うの。
- B子 先生の中学生らしいと 自分の中学生らしいと言うの ちがうもんね。
- A子 先生たちのは まじめっぽいじゃ。私たちそういうのいやじゃん。
- B子 こっちら見れば 中学生になればもうって感じあるしさ もうおとなっぽいって言うかね。
- C子 ぜったいやだよ。
- B子 高校行ってはでになる人 いるよね。
- D子 自由がほしいと思わない しばらくたてるみたい。



E子 男子だって標準着てたら ださいと思わない？  
A子 そうだよな スボンビチーっとしたのやだよな。  
C子 ヤダヤダ。  
B子 男子だって 長ラン着たいと思うんじゃない？

- 印 象 言葉の調査が目的だが、服装に関する話題だけに、言葉の善し悪しだけでなく生徒たちの考え方もわかり、生活指導に役立つ部分もありそうだ。生徒たちは、規則や教師への不満や反発を話題にするなら何時間もしゃべり続けられそうだし、どんどんエスカレートしそうである。中学生の会話の内容は、男女の違いで当然異なると思うが、ここにあげたような服装に関しての話題は、男女共によく話すことのひとつのようだ。

---

### やっぱり、とんねるず

---

- 時 間 放課後
- 場 所 用務主事室  
(以上、前掲の会話と同じ)
- 状 況 こんどは、教師の私が生徒と一緒にしゃべりをしている様子である。「どうだ、そろそろテープが終わったかな」と言いながら録音場所にもどり、そのままあれこれ聞き出してみたところである。この頃には、生徒も録音していることをほとんど意識していない。
- 会 話 教師 今一番はやっているの どうやって言うの？  
C子 うーんとね。  
B子 ちょっと切れた人が言うと ブツツン。  
C子 ブツツンしてくるしね あと……。  
B子 こりゃ一本取られた てやんでー。  
A子 うそー のこと うによー とか。  
C子 あとは思いきさない。  
教師 1年のとき どんなのはやってた？ 昔はやらなかった？ なんとかだしーとか。  
(すかさず)  
E子 やっぱー。  
B子 その人が片手に出すんだよね。  
D子 パパイヤ。  
A子 なんじゃもんじゃー アハハ はやったというか そのグループで その言葉つかってるとかあるじゃない。  
教師 たとえば何組はそういうのがさかんとかあるんじゃない 作るクラスとか あのクラスにいと結構そういうのがあるとか。  
C子 A組が作るんじゃない A組が多いんだよね。  
B子 A組しか知らないよ。  
教師 今年のA組 フーン あまり他とつきあいがいいわけだ それじゃ。  
E子 男子がけっこう……。  
教師 そういってはやり言葉は 君らどこから仕入れる？  
A子、B子 テレビ。  
教師 塾は？  
D子 塾ない。  
B子、C子 塾なんか 行ってない。

E子 テレビがおもだよ。  
 C子 1人がさ たとえば おもしろいこと言ってるとき そういう真似……。  
 B子 そー そー 真似したがるんだよね ロッキーとかね。  
 D子 ああ ロッキーがあったね。  
 教師 テレビだとどういふ番組があれなの もとになってるの。  
 D子 とんねるず とか出る……。  
 B子 うーん そー。  
 教師 そういう歌番組とか……。  
 B子 じゃなくて お笑い番組……。  
 教師 あー お笑い番組。  
 B子 それもスターが出てるやつとか ダサイって言うか おじさんとか出ているやつ  
 じゃなくてね。  
 教師 雑誌は？  
 E子 雑誌はファッション雑誌。  
 D子 マンガとか……。  
 教師 じゃなんとなくはやるわけだ？いつも同じ人が仕入れてくるとか。  
 D子 じゃなくて なんか ふいに出て来るんだよね。  
 教師 もうー サイテーとか言うのは やってないわけ？ぜんぜん？  
 E子 そういふのは普通の言葉になっちゃったよね。  
 教師 なっちゃったわけ、ダサイとかサイテーとか。  
 C子 もー 普通よ。

●印 象 この会話も日常とほとんど変わらないように思う。彼女たちの会話からわかったこと  
 だが、やはり言葉にも、外から伝わってくるもの(テレビや雑誌を通してなどが多い)、友  
 だちがなんとなく言い出したものなど、いくつかのタイプがあるらしい。そして本人た  
 ちも忘れてしまうくらい速いスピードで入れかわっているようだ。広範囲で知られ、つ  
 かわれるような言葉は、想像される通り、テレビの番組や雑誌にその源があることがわ  
 かった。ある程度テレビ等を見ていないと、友だちについていけなくなるのかもしれない。  
 ところで、異性、修学旅行、学校行事でのできごとなどは彼女たちの大好きな話題  
 のようだ。

●全体の感想

「うちの子、言葉づかいがものすごく悪いんです。先生、学校でもその場で注意して  
 いただけませんか」以前、私のクラスの保護者会でこんな要望が出たことがあった。ま  
 わりの母親たちも「そうそう」と同様の反応を示し、どの親も子どもたちの言葉の乱れ  
 に少なからず困っている様子がうかがえた。その時は「わかりました。学校のほうでも  
 充分気をつけます」とありきたりの返事をしたものの、すぐに特効薬など見つかるはず  
 もなく、翌日生徒たちに「言葉づかいを直そうな」と言う程度であった。

しばらくしてこの調査に入り、これはよい機会だ、ここで何かつかめるかもしれぬ、  
 よい方策も見つかるかもしれない、と期待をした。だが実際に情報収集の段になり、実  
 態がつかめないのに閉口した。日常のなんでもない会話を生でつかまえることが、まさ  
 かあんなにむずかしいとは思わなかった。やっとチャンスに恵まれ「やった。とれた」  
 と喜んだのも束の間、原稿に起こせない(音が小さくて、うるさくて、速くて聞きとれ  
 ない)。そんな状態がしばらく続いた。生徒たちの協力も得て、苦勞の末なんとか原稿に  
 起こし、実態の一部を捉えることができた。しかし、次の壁が待っていた。

私自身が毎日の生活で生徒の言葉に慣らされて鈍感になってしまっているのか、改め  
 て会話をとり上げてみても、想像したほど、また言われているほど実態は荒れてなく問  
 題点を引き出すのが、とてもむずかしく感じられた。調査を通してわかったことを挙げ  
 てみよう。

流行語や乱れた言葉にも特徴がありそうだ。広がりを見ると、大きく3つに区別できる。①かなり広範囲でつかわれているもの、②特定の地域あるいは学校でつかわれているもの、③グループまたは極めて少人数だけでつかわれているもの。

また、彼らが激しく言いあいをする時の言葉の中には、いつの時代でも、同じくずし方しかないものがある。例えば男子の場合で言えば「僕」と言わずに「オレ」。「君」と言うかわりに「オメエ」「テメエ」。「あの人」が「アイツ」「アンチクショー」となる。小学生から高校生あたりまで幅広くつかわれ、不思議と時代的变化がない。

言葉づかいで分類すると、生徒のタイプは3つありそうだ。①いつも乱れ放し、②相手によってつかいわけをする(妙な話だが、対する教師によりガラリと態度も言葉も変化する)、③常識的にわきまえた言葉をつかう。

ところで、よくよく考えてみると母親たちは、学校での生徒の様子はそれほどはっきりわからないはずである。だから友だち同士で遊んでいる時や電話での会話が、まず気に入らないということらしい。あの機関銃のような速さ、そして大きな声がどうにもたまらないらしい。

また、調査の際には私の授業中の声や生徒との対応も当然録音された。冷や汗が出た。自分自身もかなりひどい言葉を発している。それに機関銃だ。そんなにていねいにやっていたらという場合もあるが、改めなくてはいけない面を発見し、反省している。

さて、勝手なことを書いたついでに、中学生あたりでなぜ言葉の乱れが急にひどく現れるのか、想像してみた。たぶん彼らにとっては、言葉も立派なファッションなのだろう。靴のかかとをわざとつぶしてはく、あるいはちょっと変わった形のズボンやスカートををはくのと、ほとんど同じような意味があるのではないか。つまりノーマルではカッコ悪いし、まじめぶっているようには思われたくないという気持ちが、中学生には強く働く。少し変わったところがカッコがいいのだ。それに、はやっているものには敏感でなくてはられないのだ。

中学生の言葉がどうあるべきか、乱れている彼らの現実の言葉をとりにあえずどこまで正すかということを見ると、私は次の二点を中学生に教えることが重要であるように思う。一つは以前はやった言葉だが、言葉をつかう際にもTPOをわきまえさせること。言葉は生きているのだし、いろいろな場面、状況でつかわれるのだから、その時々で変わってもよいはずだと思う。もう一つは日本語特有の部分の正しく伝えることだと思う。外国語が不可欠となった昨今だが、日本語の美しさは失いたくない。



## ■ ケース・レポート 3

東京都東久留米市立久留米中学校教諭 長嶋安男

### 言葉の中にも見える成長

●素 材 新入生の班ノート

●素材説明 何冊もの班ノートの中から、なぜここに掲載の文を選んだのか、どんな基準で選んだのか、それをまず断っておきたい。

中学生が日常つかっている“言葉”を知りたいというのが動機で、1年生の班ノートを借りた。しかし、根底には何気ない日常用語の中に、中学生の本当の気持ちや本来の姿が出ているのではないか、それを改めて見直したら「わからない、わからない」と悩んでいる中学生の姿が少しでも捉えられるのではないか、生徒指導の手だても捉えられるのではないか、と願う気持ちがあったように思う。

また、選択の基準は、できるだけ生徒の実態が現れていると思えるもの、読む方にも真意をくみとってもらえそうなもの、ということにした。この班ノートの記録が、少しでも中学生理解のうえでご参考になれば幸いである。

●班ノート抜粋 5月30日(金) K男

明日から3年生は修学旅行に東北に行きます。だから多少は部活がきつくなります。といっても、陸上部はバレー部に比べてそんなにきつくありません。朝練は、A先生などがお金のせつやくのためにいっしょにタクシーに乗っているのを見ています。

今日のHは少しおかしかったと思います。いつもよりもすごくおこっていたから、なにか回りの人にげいいんがあるんじゃないかと思いました。

ぼくは今日たん生日をむかえました。13才のたん生日です。先生はたん生日がくるのがいやだろうけれど、ぼくはいちおうたん生日がすきです。たぶんまだ心がおさないのでしょう。先生は若づくりするならおこらない方がいいと思います。おこるとびようによくはないから……。けしょう代は家計にひびきますよ!!

6月 C子

今日は……5月……ではなくてエ……六月のオ……2日 ですね!

そいから週の始め 月曜日なんですよネエ でもって昨日 ころもがえがあったのです。

ああ～これで……やっとな夏服になれたあ～。でも やっぱり夏服は夏服だけど制服は制服 暑いですよねえ……。

ところで……話は変わりますけれどもオ。うちのベランダ(窓)から見えるうらの方ではア 竹があるのですヨ。で その竹の子さまが出てきたのです。ずっと前(?)までは、ああ～出てきた出てきた……とっていて次の日、おあ～のびてるのびてると思って……。そしてまたしばらくして……ワァ～すごいいきおいだこと……とてエ。そして昨日、おととい! ヒェ～す、すごい!! ナ、ナント2日ほどで1メートル以上のびたように見えました。また 昨年の竹のせをぬかしてのびていく……。そして今日は……だんだんと竹の先がさけてきてエ～ だんだん緑色にちかい色になった きてさ

これからあ〜!? そうですね〜、私のようにこれからも少し少しのびていき〜。  
体かくもよくなって……そのうち(?)とどくよ空まで…… 竹の場合はころもぶえ

9月10日(水) 1子

今日、運動会の種目を決めました。私は、はじめ走りはばとびだったけど、1000メートルになりました。1000メートルなんか、はじめやるきはなかったけど、最後のこつてきめてる時、今日、私は、はやく帰えんないといけなかったので、「はばとびかわってくれる人いれば1000メートルでもいいよ」などとかるがるしく言ってしまいました。いいおわってから1000メートルのおもさに気付いた。あさはか このいいかげんな性格なんとなおしたいです。とにかくなくなってしまったからには、いちおう、がんばりますが、せめて14番以内にははいたいです。14人ではしるのだから15番ということはありえない。

#### ●全体の感想

子どもたちの日常用語を調べる目的で読み出した班ノートでしたが、中学校入学が期待よりも恐怖で小学校の卒業生に迎えられていることに、中学校教師としては申し訳なさが先に立ってしまいました。

ただ、“若さ”は救いですね。親や教師がどう思おうと、どう感じようと、子どもたちは中学校生活に逞しく適応していきます。部活動に、先輩に、学級に、テストに、時間の使い方に、担任の先生に……等々。適応するだけではありません。入学後半年も経てば、対応の仕方も憶え、余裕すら持ち始めます。簡単に引き受けてしまった1000メートル走。その重さに気づいて自分の軽率さを嘆きながらも、せめて14番以内(選手は14名)に入りたい、とユーモラスに書く女生徒。新しい中学校生活の中で、彼らは瞬間に自己を変貌させていきます。これが、成長なのです。

行動が変化すれば、言語も変化してゆくのが当然です。たとえ流行語はつかわなくても、表現は中学生らしくなります。6月2日の、竹の子の成長を表現する言い回し……「ヒェ〜す、すごい!! ナ、ナント2日ほどで1メートル以上のびたように見えました」なんていう表現は、小学生ではつかいません。また、「先生は誕生日が来るのが嫌だろうけれど、ぼくはいちおう誕生日が好き。先生は若づくりするならおこらないほうがいいと思います。おこると美容によくないから……。化粧品代は家計に響きますよ」などは、自分の幼いのを認めながら、一方で、一生懸命背伸びしようとしている中学生の文章表現といえます。

やがて2年生、3年生ともなれば語彙もふえていくでしょうし、表現方法も複雑化していくでしょう。中学生をみていますと、豊かな言語を使えるようになると、心も、広く深くなるように思います。親は、教師は、常に語りかけて、彼らから多くの言葉を引き出すように努力することが大切だと思います。それが、中学生の心身の成長に資することです。

## ■ ケース・レポート 4

東京都足立区立西新井中学校教諭 森 永 徳 一

### 言葉は心の窓

- 時 間 放課後（帰りの学活後、10分ほどたって）
- 場 所 教室
- 状 況 学級三役（学級、生活、学習委員）と班長合同会議の会話の様子である。この会議は、日々の学級の生徒たちの生活上の問題点の解決のために、毎月定例的に開かれている。今回はとくに、「授業中の私語」と「言葉づかい」について話し合った。担任は公務のため出張し、同席していない。
- 約35分間会議が続き、二つの議題の解決策は具体的にならなかった。「私語」については、各自それぞれが注意し、班長が注意することに決まった。「言葉づかい」に関しては、各自が努力するしかないと決まった。これらのことが次の朝学活で学級委員から発表された。
- 会 話
- A子 これから三役 班長会議を始めます 起立 礼 今日の議題は「授業中の私語」と「言葉づかい」についてです まず 最初の「授業中の私語」について話し合ってもらいます この前出た「注意する」では みんな注意するでは みんな注意しても きかなかったから だからどうすればいいか まず 学習委員から1人ずつ言ってください。
- B子 じゃあ 言えなかつたりしたらあ？
- A子 じゃあ つぎG君（言えず）……Cさん。
- C子 その うるさい人の周りの人が こうちゃんとお その人を注意するように みんなで……。 (廊下うるさく聴きとれない)
- A子 D君。
- D男 その うるさい人は いくら注意してもだめなときは 作文(反省文のことか?) かなんかで 反省を書かせる。
- B子 “周りの人が注意する”だよな。
- A子 うん Hさん じゃあなくて 1班……まだ Iさん……まだ J君……あつ じゃK君ない えっ。(周りゴゴゴ)
- D男 アレ あいてる……。 (ズボンにテープが貼っていた)
- A子 だから 今の席だとお。
- だから 今の席だとさあ うるさい人の周りにさあ またうるさくしゃべっちゃう人いるんじゃない すくしゃべっちゃう人 だからだめじゃん。
- E子 クラスでさあ クラスでさあ あいって言うの うん しゃべんないような雰囲気作らないと あれでしょ。
- A子 あー あー。
- F男 ふざけてんじゃねえよ。(D君がふざけていた)
- A子 他にないですか Iさんありまして Lちゃんありませんか。一略一

前も話し合っただめだったけどね うるさくなっちゃうん だよー 特に静かな教科とうるさくなる教科あるでしょう だからどうしたらいいと思う まずうるさい人に聞いてみよ M君どうぞ。

G男 なんで 私を呼ばないんだ バカタレが……なにィ——録音をとっている——。  
(遅れて入室の班長の1人)

A子 バタリ!! でてけよ ホラ……。 (バタリとはG男のニックネーム)

G男 なんで 俺 班長だよ。

A子 あっ じゃあみんなでエ なんでエうるさい教科とお静かな教科があるかを話し……。  
(よく聴きとれない)

C子 なめられている先生と なめられてない先生がいると思います。

F男 女の先生と男の先生の……。

C子 言っているんですか。

A子 はい。

C子 それでM先生は どうして?

B子 なめられてるって言うのもあるけどお みんなが……この先生だったら怒ってもこわくないとかあ 甘えていると思う。

C子 そお そお。

A子 みんな 怒ってもこわくないと言うしね。

E子 あんまりぶたない先生とさあ ぶつ先生がいるしね。

A子 M君やめて (ふざけていた) おもしろくないとかね 授業中ね 言う人がいる他にありませんか……だからそういうふうには。

●印 象 授業中の私語やあいさつ、チャイム着席、遅刻の問題が毎回、会議の話題になっているが、対策は注意の繰り返しで終始している。具体的に個々の生徒に対するペナルティ(罰)は設けていない。各自の自覚をまつことを主眼にしている。

今回の「言葉づかい」の問題でも、各自が自分で考えてもらうしかないという結論に達し、深く自省するしか方策のないのが現状のようだ。

中学生は「言葉づかいが悪い」と考えていたが、本録音から察するところによると、ごく普通の会話である。子どもたちは公・私の使い分け、会話する時・場所を考えているのではないかとさえ思われる。ただ、問題点を自分たちの本当の話題にしないところが、少し気になる。会話は相手を必要とする。相手による使用方法を教える場のないことも事実である。どうしたらよくなるのだろうか、どのように話すべきかということの説明しても空理空論になる。もっと、会話のHow to(ハウツー)を考え、教えるべきだと痛感している。

#### ●全体の感想

最近の職員室の話題の中で「言葉づかい」や「あいさつ」が出来ていない子どもが多くなったと耳にする。教師と慣れ慣れしく話をするとか、目上の人にあいさつをしないとかが、いつも話題の中心になる。

子どもたちの休み時間の会話となると、単語が飛びかう。では、それで会話が成立していないかと言えば、そうでもなさそうである。教師の中でも若い教師、女性の教師、ベテラン教師などの会話の言葉は、それぞれ様々である。子どもたちの教師に対する言葉も前述の教師によっても様々である。当然、友だちとの会話は私たちが想像できないぐらいに、判別不明の言葉づかいが多いのであろう。あだ名(ニックネーム)と単語で会話が成立している。「～さん」「～君」と呼ばないことから推察できる。

友だち間の会話にこそ、今の中学生の本音の部分が隠されていると、私は確信している。対教師との会話は、建前の「～べきだ」という会話に近いものであろう。敬語に至っては、活用はほとんど不十分である。

言葉は文化の一部を形成すると言われているが、現代っ子は現代っ子で新しい言葉の

文化を創造していることも否定できない。既成の言葉づかいから、新造語をつくっていることも見逃すことのできない事実である。その新造語の流行による会話は多く見受けられる。若者は今の存在で生き、こうあるべきだという規範を少しずつ破壊し、また新しい言葉をつくっているのではないだろうか。私たち教師は、生徒の真の姿を見るためにも、今話されている言葉づかいのマイナス面だけを見つめていては、教育の本質を見失う危険さもある。その中に、内包されている子どもたちの本当の姿を言葉や会話で洞察する力を持たなくてはならない。会話が成立しないとか、言葉が汚いなどと子どもの口から表出する現象面だけ把握するのではなく、なぜそのような会話や言葉づかいをしているのかを、日々子どもたちの活動の中で深く考察する必要がある。そのことを通して、子どもたちを見る眼を培わなくてはならない。言葉は「子どもたちの心の窓」である。





## ■ケース・レポート5

東京都新宿区立牛込第二中学校教諭 伊藤 澄生

### 週番集合で……

- 時 間 放課後、下校時刻の5分前
- 場 所 昇降口廊下
- 状 況 週番長が集合をかけ、週番の点呼をとっている。週番の男子生徒2名に通りかかった教師が声をかけている。
- 会 話
- 教師 腕章してるかな。  
A男 あっ（ポケットの中をさがす）  
ひっばられて へんになっちゃうんだ。  
B男 ひっばられるほうが悪いんだよ。  
A男 タカノブとか。  
B男 あんなやつ なぐっちゃえばいいんだよ。  
A男 なぐると目んたまとびだしちゃうよ。  
教師 楽しかった？ 週番は？  
B男 こいつ2回も遅刻したんだよ。  
教師 じゃあだめだ もう1週やらなけりゃ。  
A男 3回だよ。  
教師 そんなことないよ 私るときは1回でもダメですよ。  
A男 えー。（残念そうな顔）
- 印 象 生徒に「腕章してるかな」と声をかけると、「まずい」といった顔で、ポケットの中に手を入れる。教師の言葉を無視するというようなことはない。しかし、イヤそうである。
- 集合時刻に遅れてもよい限度は、3回までである。それをいかに有効に使うかを常に考えているようである。
- 生徒たちは、なぐるとかたたたくとかという言葉をよくつかう。

### クラブ活動の前に……

- 時 間 クラブ活動の始まる前の休み時間
- 場 所 理科室
- 状 況 1年の女子生徒6名と教師の会話

- 会 話 教師 ところでおかあさんのことなんて呼ぶの？
- A子 おもて向きは おかあさん。
- B子 うちもそうだよ。だいたいそうだよね。  
(一同 そう そう)
- 教師 表があるということは 裏もあるんだ 裏じゃなんて呼ぶんだい。
- C子 表向きは「おかあさん」で 裏では「ババァー」。  
(一同 大笑い)
- B子 「オニババァー」とか。
- D子 むかつくときは「クソババァー」って言うときもあるよ。
- E子 電話のときが最高 とつぜん声が変わるんだよ。  
(一同 ほんと ほんと)
- C子 この前 うちのクソババァー 文句ばかり言うからにらみ返したら 私のことぶつ<sup>つ</sup>の むかつくから なぐり返したら 先生に言いつけるとか言ってんの ばかみたい 先生 うちの親くるっていうから 何か言ってきても相手にしないでね。
- 教師 じゃあ おとうさんのことは なんていうの やっぱり表と裏があるの？
- B子 何か物を買ってもらったときだけ「おとうさん」 であとは 「おやじ」とか。
- A子 むかつくときは「クソジジィー」。
- B子 呼ぶのはめんどうだから「ちょっと」とか。  
(一同 笑い)
- 教師 本当に「ちょっと」って言うの？
- B子 だって ふだんあんまり話さない みんなもそうじゃない。

- 印 象 中学生になると、ホンネとタテマエとを使いわけた話し方をする。両親の会話をよく聞いていて、たまに、家庭の様子をかいま見せてくれる。

●全体の感想

取材をしたのは下町にある学校で、学校の周囲は古くから住んでいる人が多く、地域的に安定している。そのせいか生徒は素直であり、明るい性格の子も多い。言葉づかひも、思ったほど乱れていない。テレビなどで流行している言葉も、彼らの会話の中では、ひんぱんにつかわれていないようである。むしろ、その場その場で適当な言葉をつくって楽しんでいるようで、その言葉自体もそう長い期間はつかっていないようである。

中学生だけが特殊につかう言葉があるように思われているが、どうもそうではないらしい。その点から言っても、言葉づかひはそう乱れてはいないというのが実感である。長い言葉を省略形でつかうことも今に始まったわけでもない。母親を、母親のいない所で、「クソババァー」呼ばわりしているのもそうである。

むしろ気になるのは、言葉の数がへっていることである。例えば、「先生、プリント」と言っただけで手をさしだす。「先生、プリントが足りないので、いただけませんか」といった言葉を聞くことは皆無に近い。そんなとき寂しい思いを感じる。

## ■ ケース・レポート 6

元東京学芸大学大学院生 李 淑娟

### 明菜ちゃんのサイン——真実はいかに？

- 時 間 日曜日の午後3時頃
- 場 所 東京・原宿のファーストフード店
- 状 況 女子4名(中1・中2各2名)が中森明菜のサインについて話している。
- 会 話
- ・ あのねエ 小学校ン時ね いた すごい子はねエ 「あたしねエ 中森明菜のねエ なんか 中森明菜の友だちなの」とか つうのよオ。
  - ・ ンフ…… (あいまいな笑い)。
  - ・ なんか 「友だちなの」っとか……。
  - ・ 「友だちなの」って？
  - ・ ンー。
  - ・ ずい分 話が飛んできたねエ 本当に。
  - ・ すごく 年下だと思わない？「どうして友だちになったの？」つつつたらねエ なんか その子んち なんか お店やってるのね そしたらねエ 「ンーうちにねエ 来てねエ」とか 言ってね 「Yみたいなどこ 来っかー」とか 言いたくなっちゃったじゃん？ んでさーあー 「まあ いいや」と思ってさあ 「ンー それでエー？」とか 言ったの そしたらねエ 「ンー こないだ 明菜ちゃんがねエ うちにねエ また来たときにねエ なんか サイン 100枚書いてもらったの」 だって 「そんな書くひまあるか」つつうんだよねエ。
  - ・ 仕事がいっぱい——。
  - ・ 「じゃあ 100枚見せろ」っていう。
  - ・ そう だからねエ 「じゃあ それ持ってきてよ そうね 1枚でもいいから持ってきてよ」つつつたらねエ 「ウン じゃあ 明日持ってくる」とか言って 次の日 休んだの 学校。
  - ・ ンフ…… (あいまいな笑い)。
  - ・ そいで ソン 次の日来たじゃん できあ 「ネエ 持ってきてくれたあ？」つつつたら 「エー なんのこと？」つつつから 「明菜のサイン」つつつたらさア 「あーあれねエ？明菜ちゃんが返してって言うから返しちゃった」とか言ってねエ
  - ・ 返すわけないじゃん なんて書いてもらって返すわけ？
  - ・ なんか ひどいこと言うネ それ。
  - ・ 1枚ぐらい落としていくよオ。
  - ・ ねエ。
  - ・ で「返して」つつつたらさあ 1枚ぐらいだしねエ 机ンとこしまっておくとかさあー。
  - ・ って思うけどねエ。
  - ・ 「返してエつつつから 返しちゃった」つつうの。

- そんなことないよ バカ。
- ンフ……。
- 普通は「返して」って来ないよ 絶対!
- ン 「返して」ってねエ 自分が書いたサインねエ みんなに配ってまわらない普通はねエ?
- そうよねエ。
- あたし あんとき 「ああ いやだなあ この子」と思った。

- 印 象 最近の子どもたちは、2、3人集まっているところになにかおもしろいことがあれば、すぐのってくる。ファーストフードの店で、テーブル上のテーブルをまわした状態にして、何人かの女子中学生に話をしてくださいとお願いした。別に名前を言わなくて結構ですと言ったためか、意外におもしろいことをやると思われたようで、女子中学生たちは協力してくれた。会話はたまに盛り上がり、内容は学校のクラブ活動から、女子プロレスやファン……など様々だった。
- しかしこの会話を通して一番気になったのは、彼女たちがしゃべったことは全部自分以外のことで、学校の友人や先生に対するからかいが多かったことである。これは自分のことを公的な場所で話すのを友だち同士の間でさえいやがっている、あるいは、自己の意志を伝達する能力が遅れていて、他人のことをからかう技術ばかりうまくなったことだという解釈をしてもよいのだろうか。

## 気にいらないやつ

- 時 間 日曜日の午後3時頃
- 場 所 東京・原宿のファーストフード店
- 状 況 女子4名(中1・中2各2名)の会話で、母親を“お母様”と呼んでいる友人をからかっている。
- 会 話
- なんか うちの学校ってはっきり言ってきらわれてる子が入って来ない?
  - ンフ……(あいまいな笑い)。
  - いるんだよ たいはんそうじゃない?
  - ンフ……。
  - ほら きらわれていじめられてうちの学校をくるってか そういう子集まってないなんか。
  - ああ! そう! Yさんそうだよね!
  - Yさんもそう 本当。
  - なんかね 区立の小学校だといじめられそうだから お母様がどうここに来いとかが言って。
  - えー お母様(2~3人で)……。
  - そう ってあたしに言った あたしはおか おか……(どもる)。
  - あ そかそか……。
  - お母さんじゃないの?とか お母様とか言ってねエ 電話する時 お母さんとか言ってんの。
  - へエー。
  - そいでねエ あれだよ なんかねエ ほら なんかお母さんとかにはねエ なんかお母ちゃんとか 母ちゃんとか「なにが母ちゃんだよ お母なんか タマでいいんだよ」とか言って。

- なんかねえ Yさんねえ 「いただきます」でねえ 言わないで食べちゃうと怒られるとか言って あたしのもん 勝手に持っていっちゃったよ この前。
- あたしねえ あれには びっくりした なんかさあ 「ちょっと どいて」とか言ってさあ 「あっ ちょっと待って あたし言うことあんの」とかね 「何を言うの」つったらさあ 「いただきます ああ いいよ どいて」だって、アハ……。
- それ 言ってからじゃなきゃ いす どいてくれないの……アハ……ケラケラ笑っちゃったよ。
- あー なんか すごいよね キリスト教？
- ではない。
- うちの ラーメン屋か なんかだよな。
- ソッ うちラーメン屋 ラーメン屋で「いただきます お母様」だって アハ……。

●印 象 この会話から、「お母様」と「いただきます」という言葉をつかった子が、お嬢様を気取っているかどうかは別にして、クラスの中で皆と違う言葉をつかっている子が嫌われ、いじめられていることがうかがえる。「郷に入っては郷に従え」ということわざを皮肉にとっているわけでもあるまいが、いくら言葉づかいはよいほうが好ましいと知ってはいても、中学生なら、一般の中学生がよくつかう言葉の流れにしたがっていくほうがしこいと思っているのだろうか。

●全体の感想

同人会の席上で現場の中学校の先生たちの話を聞くと、学校での日常会話や作文で書かれた文章中にみる今の中学生たちの言葉づかいは、思ったほど崩れてはいないということである。また、話し言葉においても書き言葉においても、友だち同士でつかう言葉と、先生に対してつかう言葉とは、うまく分けてつかっているようである。

日本の社会は、建前と本音という両面的な性格を持つ社会であり、日本語自体も敬語や謙譲語などのつかい方次第で上下関係を表すことのできる言葉である。学校での教育は、建前の社会に通用する言葉を教える。しかしその裏で、放課後の中学生たちはやはり言葉の文化の中で、友だち同士の関係を作っている。仲間に入れてもらうために、やはり言葉の波に身をまかせ、その友人関係の中で、初めて本音を吐いたり、中学生らしく自己を表現したりするのではないか。

建前の社会の中で、人々はストレス解消の意味で、たまに仮面をぬいでは、友だち同士で上下関係なしでふざけたりする。もう一つ本音に近い言葉をつかう要求が生じてくるのは、当然であろう。

## 第III章 アンケート調査から



### 1. 言葉づかいは悪いか

まず、生徒たちは自分の言葉づかいをどう思っているのでしょうか。表1の通り、「あまりよくない」と思っている者が46.6%と、ほぼ半数に達する。自分ながら言葉づかいがよいとはいえないと感じているのであろう。中でも、男子よりも女子のほうにそう思っている子が多いのが目につく。

女の子だからもう少し言葉づかいをよくしなればと思う。しかし、つい乱暴な言葉をつかってしまうのであろう。

もちろん言葉づかいにTPOがあろうから、友だちの間で乱雑に話していても、いざというときにきちんとした言葉づかいができればよい。そこで、敬語のつかい方についてたずねる

と、図1のように、「うまくつかえる」とはいえないが、「ぜんぜんうまくつかえない」こともない。つまり、そこそこに敬語をつかえるつもりだと生徒たちは答えている。たしかにツッパリの生徒でも、高校入試の打ち合わせともなると、昨日までとうってかわった、ていねいな言葉づかいをする。したがって、敬語をそこそこにつかえるつもりというのはそれほど間違っていないように思える。

もっとも表2に掲げたように、仲間のあいだでウケる話し方をするのは、敬語と同じ程度にむずかしいことのように、3分の1以上の生徒が、シャレた話をできないと思っている。

中学生は自分らしきにもっとも敏感な年頃なので、自分らしい気のきいた話し方をしてみたいと願っている。しかし、どうもいまひとつうまく話せない感じがするというのであろう。

こうしたデータに接すると、生徒たちが思っている以上に、客観的に、そしてクールに自分たちの言葉づかいを評価しているのがわかる。彼らはやみくもに新しい言葉をつかったり、変わった言いまわしをしているのではないように思える。

生徒たちが予想していた以上に、話し言葉に対して健全な感覚を抱いているのは、これまでの数値からも明らかだが、仲間たちの言葉づかいについて、図2、表3のように答えている。

この中で興味をひくのは、生徒たちが友だちの言葉づかいが少し乱れていると思っているのはある程度まで当然であろうが、男子は女子の言葉づかいがひどいといい、それに対し女子は、男子の言葉は乱暴だと感じている事実であろう。

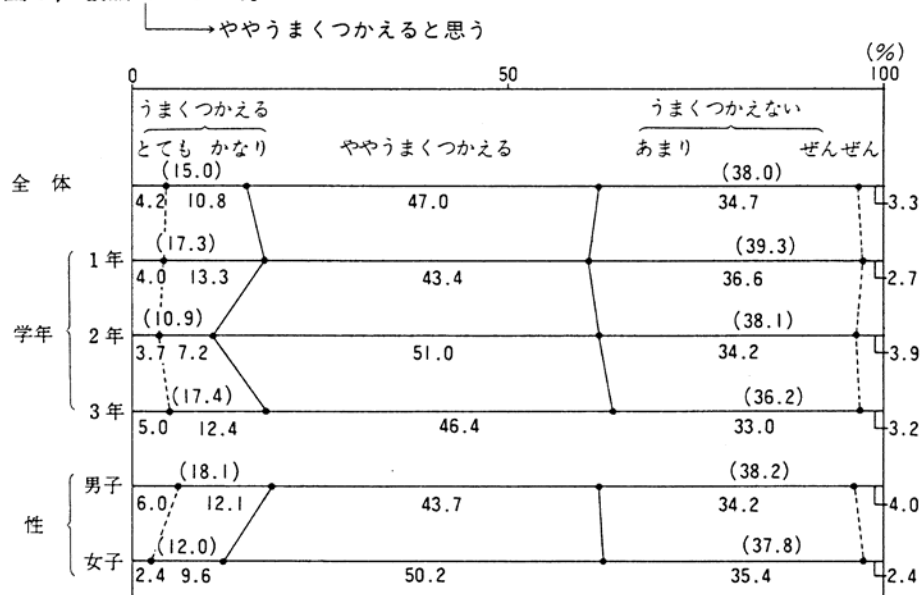
(表1) 自分の言葉づかい

→あまりよくないと思う

		よ			い		よ		く		ない	
		と	と	と	と	と	と	と	と	と	と	と
全体		2.5	5.4		38.6		46.6	6.9				
		7.9					53.5					
学年	1年	2.3	5.9		39.0		46.0	6.8				
			8.2				52.8					
	2年	2.1	4.6		41.0		45.2	7.1				
		6.7					52.3					
3年	3.6	5.6		34.6		49.4	6.8					
			9.2				56.2					
性	男子	4.8	7.3		42.8		40.1	5.0				
			12.1				45.1					
女子	0.3	5.4		34.6		53.0	6.7					
			5.7				59.7					
成績	上	3.4	3.4		30.0		49.3	13.9				
			6.8				63.2					
	中の上	2.4	4.1		37.3		50.6	5.6				
			6.5				56.2					
中	0.9	4.3		45.8		44.4	4.6					
			5.2				49.0					
中の下	2.2	10.8		43.8		40.0	3.2					
			13.0				43.2					

○=最大値

(図1) 敬語のつかい方



(表2) 仲間にウケる話ができるか

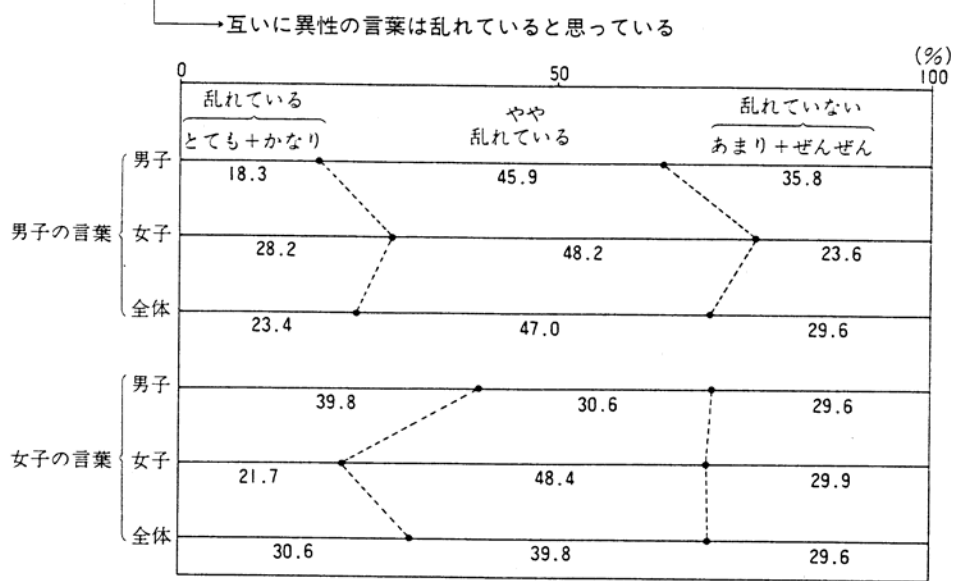
→ あまり話せるとはいえない

	話せる			話せない	
	とても	かなり	やや	あまり	ぜんぜん
全体	5.4	14.9	44.3	30.5	4.9
1年	7.9	19.1	41.6	27.3	4.1
2年	4.1	12.7	47.9	30.2	5.1
3年	3.8	11.8	43.3	35.5	5.6
男子	6.2	14.1	42.4	31.8	5.5
女子	4.6	15.6	46.2	29.5	4.1

○=最大値



(図2) 言葉の乱れ×性



(表3) 友だちの言葉づかい

やや乱れている感じ

		男子の言葉					女子の言葉				
		乱れている			乱れていない		乱れている			乱れていない	
		とても	かなり	やや	あまり	ぜんぜん	とても	かなり	やや	あまり	ぜんぜん
全	体	6.3	17.1	47.0	26.4	3.2	11.4	19.2	39.8	25.8	3.8
学	1年	9.6	18.5	44.3	25.8	1.8	12.5	22.0	41.4	20.6	3.5
	2年	4.2	20.6	49.1	23.3	2.8	11.2	21.0	37.8	26.0	4.0
	3年	4.8	10.7	47.5	31.3	5.7	10.3	12.7	40.4	32.7	3.9
性	男子	4.8	13.5	45.9	31.0	4.8	17.7	22.2	30.5	24.5	5.1
	女子	7.7	20.5	48.2	22.0	1.6	5.4	16.3	48.4	27.3	2.6

○=最大値

## 2. 流行語をつかうか

生徒たちの話し言葉の中で、やはり目につくのは流行語のつかい方であろう。もちろん流行語のつかい方についても、生徒たちは図3、表4のように、流行語はふつうか、それともやや遅めにつかい、少なくとも早くはつかわないと答えている。

こうしたデータを重ね合わせていくと、くり返し述べてきたように、生徒たちが思っている以上に言葉づかいに健全な感覚を持っていることがわかる。もちろんこれは一般論なので、もう少し詳しく具体的な言葉を示して、そうした言葉をつかっているかどうかを調べてみよう。

生徒たちに「いいとも」や「マブい」などの15の言葉を示して、それをどれくらいつかっているのかをたずねた結果を図4に示した。生徒たちによると、よくつかっている言葉は、「やっぱ」と「やばい」くらいで、あとは「ときどきつかう」か、「ぜんぜんつかわない」という。

しかし、そうした言葉のつかい方は、生徒たちの学年や性によっても変わってこよう。そこで図5、表5にそうした結果を示した。

図5によれば、流行語は「やばい」や「やっぱ」、そして「～じゃん」など、女子がつかうものも多く、男子のほうが、女子よりもつかっている割合が多いのは「ママチャリ」くらいに限られている。

また、学年別に流行語を調べてみると(表5)、

1年 = 「……じゃん」「ブツツン」「いいとも」

2年 = 「チクる」「オシャレ」「シカトする」

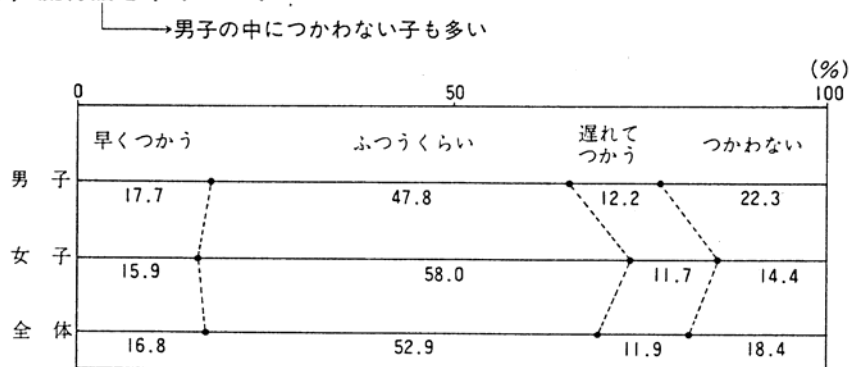
3年 = 「やばい」「やっぱ」

などをつかっている割合が多い。1年はテレビなどで流行した言葉をそのままつかっているのに対し、2年になると、ややおとなびた感じの言葉づかいをしているのが目につく。

また、学業成績とのクロスを図6に示した。「やばい」や「やっぱ」などは、成績が中より下位の子のほうがつかうのではと思っていた。しかし、図から明らかのように、どちらかという、成績上位層のほうが流行語をつかっている割合が高い。

調査を始める前は正直なところ、流行語=悪的な感覚を持っていたので、成績上位層は流行語をつかう割合が少ないと思っていた。

(図3) 流行語を早くつかうか



しかし、結果は図6の通りであるから、少なくとも、流行語=逸脱といえないのはたしかなように思える。

そこであらためて流行語についての感じ方をたずねてみた。表6のように、流行語をつかったからといって、「カッコいい」「シェアしている」ことはない。しかし、つかわなければよいのにも思わない。特に「何とも思わ

ない」が過半数を占める。よくもないし、悪くもない。つかいたいからつかっているという感じなのであろうか。

なお、流行語への感じ方と性差との関連は図7にくわしいが、男子よりも女子のほうに、「オシャレ」や「やっぱ」などをカッコよく親しみやすいと思っている者が多い。

(表4) 流行語を早くつかうか

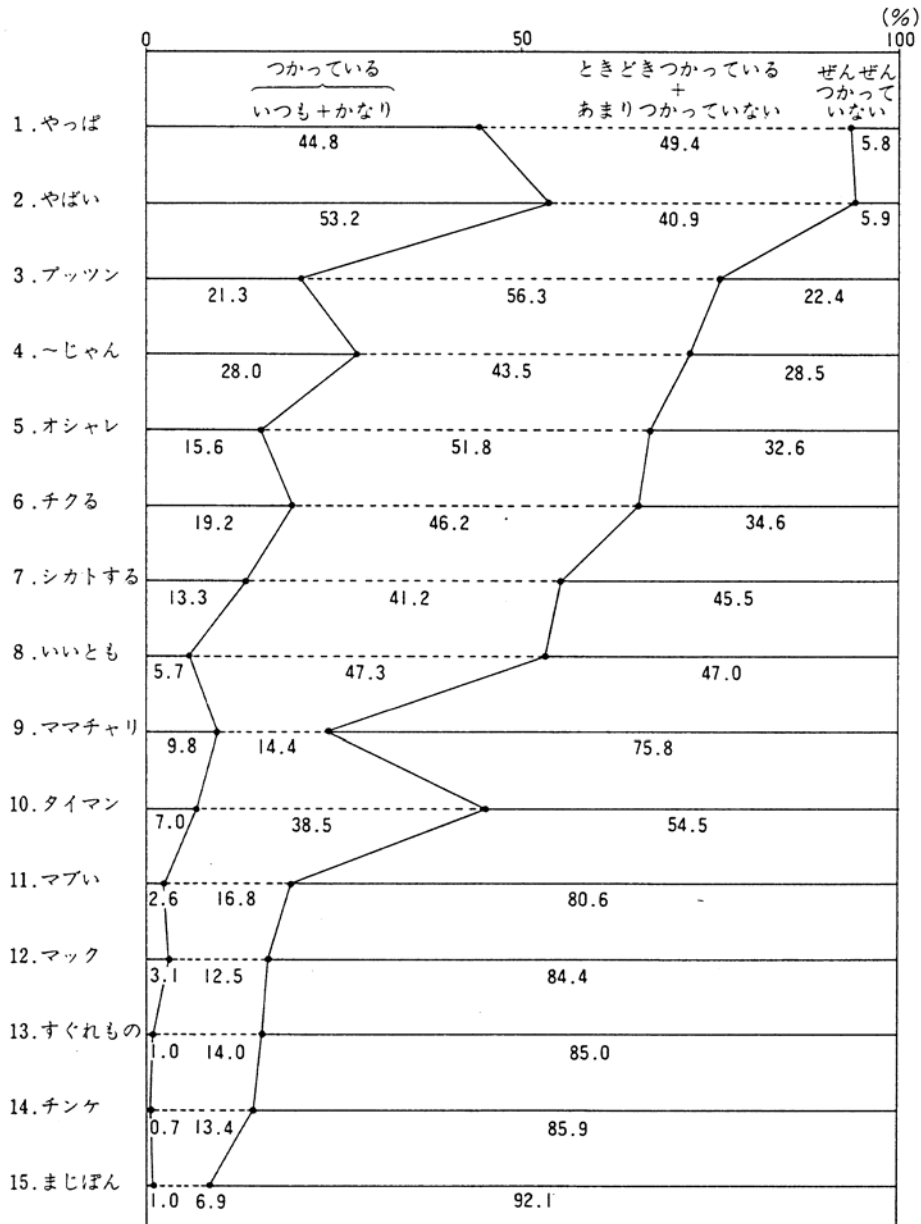
ふつうくらい

		早くつかう			ふつう くらい	遅れて つかう	つかわ ない
		トップを 切って	かなり	やや			
全 体		1.0	4.9	10.9	52.9	11.9	18.4
		16.8					
学 年	1 年	1.6	7.2	11.0	52.3	12.5	15.4
		19.8					
	2 年	0.5	3.7	11.0	54.4	11.5	18.9
		15.2					
	3 年	0.9	3.2	10.6	52.0	11.8	21.5
		14.7					
性	男 子	1.0	6.3	10.4	47.8	12.2	22.3
		17.7					
	女 子	1.0	3.6	11.3	58.0	11.7	14.4
		15.9					
成 績	上	1.1	3.7	9.3	51.5	10.1	24.3
		14.1					
	中の上	0.2	4.1	13.4	54.0	12.5	15.8
		17.7					
	中	0.9	6.1	9.4	54.7	12.2	16.7
		16.4					
	中の下	1.1	3.7	10.7	49.8	16.0	18.7
		15.5					

○=最大値

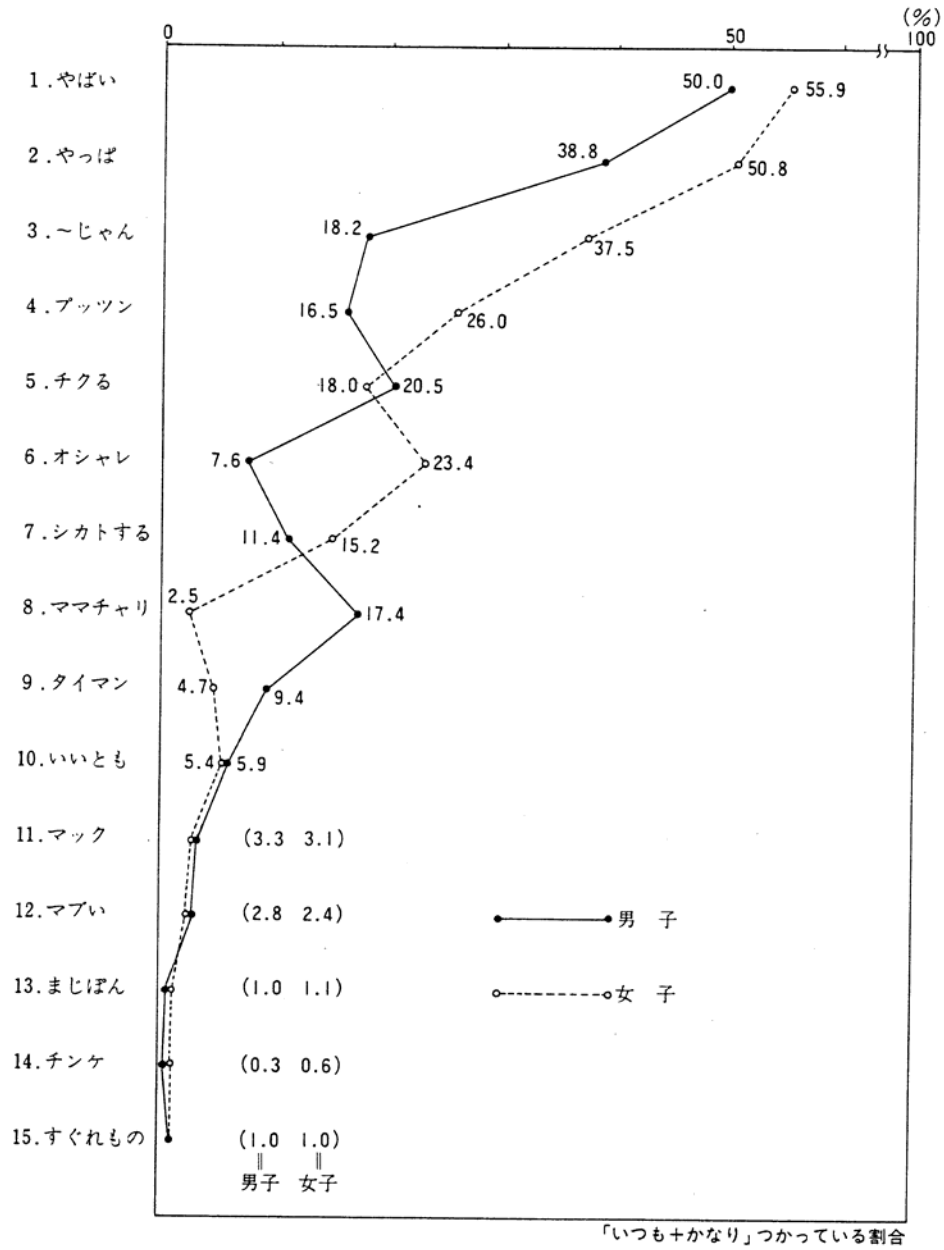
(図4) つかっている言葉

「やっぱ」と「やばい」くらいのつもり



(図5) つかっている割合×性

→女子のほうがつかっている



(表5) つかっている割合×学年

→ 学年による特性

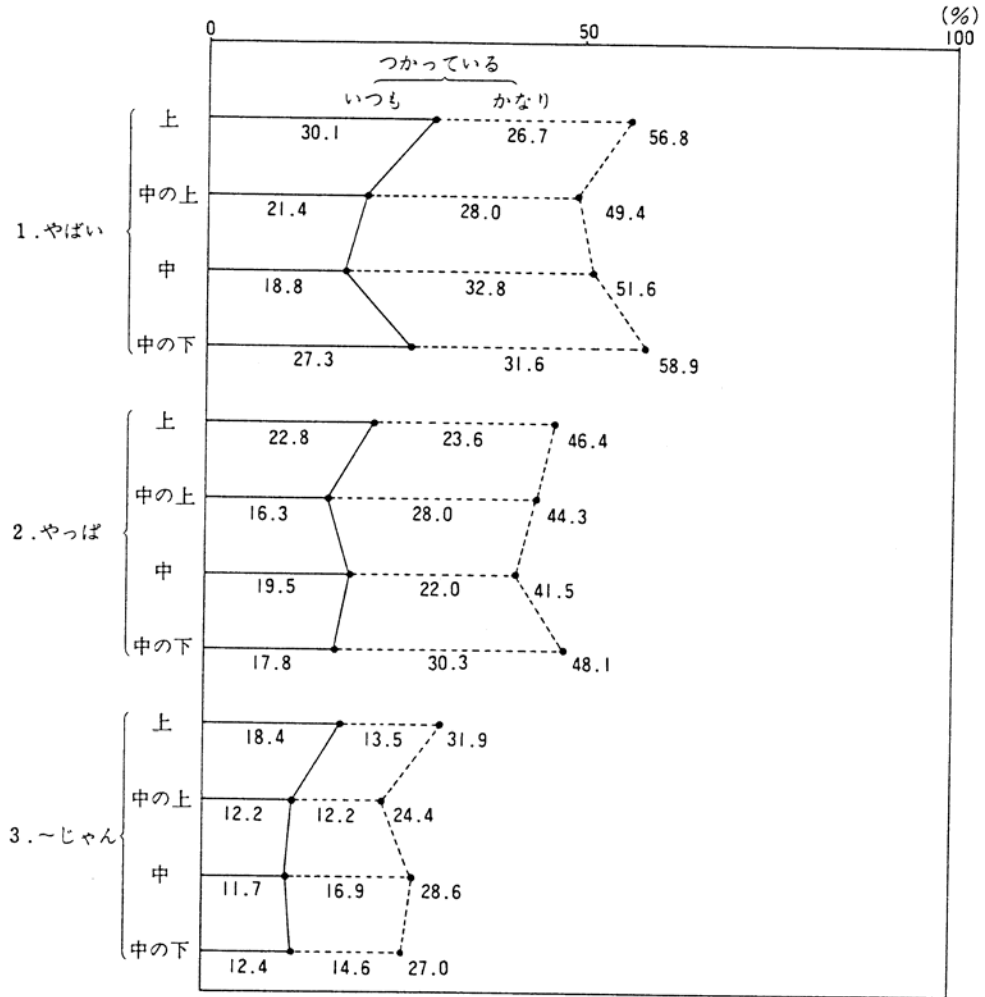
(%)

	1 年	2 年	3 年
1. やばい	$\frac{22.2}{49.2}$ 27.0	$\frac{25.5}{54.9}$ 29.4	$\frac{24.4}{56.6}$ 32.2
2. やっぱ	$\frac{15.8}{39.0}$ 23.2	$\frac{21.7}{47.7}$ 26.0	$\frac{20.2}{49.0}$ 28.8
3. ~じゃん	$\frac{15.4}{31.5}$ 16.1	$\frac{12.4}{26.3}$ 13.9	$\frac{13.6}{25.4}$ 11.8
4. ブツツン	$\frac{6.7}{23.1}$ 16.4	$\frac{8.3}{21.4}$ 13.1	$\frac{5.1}{18.8}$ 13.7
5. チクル	$\frac{5.4}{14.4}$ 9.0	$\frac{8.3}{24.6}$ 16.3	$\frac{8.4}{18.8}$ 10.4
6. オシャレ	$\frac{6.8}{12.7}$ 5.9	$\frac{7.9}{19.4}$ 11.5	$\frac{8.6}{14.5}$ 5.9
7. シカトする	$\frac{3.8}{10.3}$ 6.5	$\frac{6.7}{16.6}$ 9.9	$\frac{4.7}{13.3}$ 8.6
8. ママチャリ	$\frac{4.3}{8.8}$ 4.5	$\frac{8.3}{13.8}$ 5.5	$\frac{2.7}{6.3}$ 3.6
9. タイマン	$\frac{2.5}{7.7}$ 5.2	$\frac{2.5}{5.9}$ 3.4	$\frac{2.4}{7.7}$ 5.3
10. いいとも	$\frac{2.3}{7.3}$ 5.0	$\frac{0.9}{6.2}$ 5.3	$\frac{1.2}{2.7}$ 1.5
11. マック	$\frac{0.9}{2.0}$ 1.1	$\frac{2.6}{6.1}$ 3.5	$\frac{0.3}{0.9}$ 0.6
12. マブい	$\frac{1.3}{3.5}$ 2.2	$\frac{1.1}{1.8}$ 0.7	$\frac{0.6}{2.4}$ 1.8
13. まじぼん	$\frac{0.2}{0.9}$ 0.7	$\frac{0.9}{0.9}$ 0.0	$\frac{0.9}{1.2}$ 0.3
14. チンケ	$\frac{0.2}{0.2}$ 0.0	$\frac{0.5}{0.7}$ 0.2	$\frac{0.9}{0.9}$ 0.0
15. すぐれもの	$\frac{0.7}{1.4}$ 0.7	$\frac{0.0}{0.7}$ 0.7	$\frac{0.3}{0.9}$ 0.6

「いつも+かなり」つかっている割合

(図6) 流行語をつかっている割合×成績

→上位層もつかっている



(表6) 流行語への感じ方

→特に何とも思わない

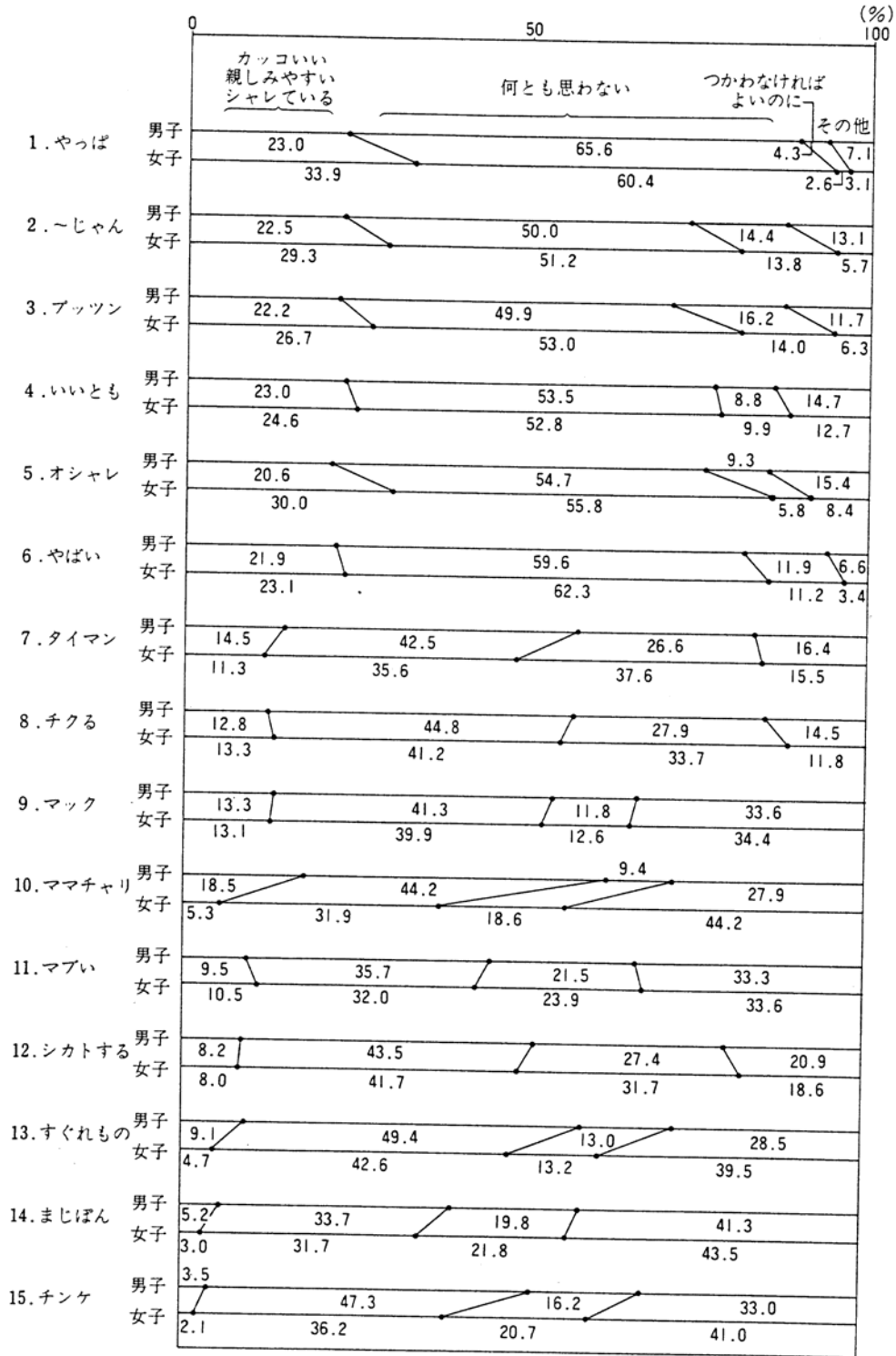
(%)

	カッコいい	親しみやすい	シェアしている	小計	何とも思わない	つかわなければよいのに	その他
1. やっぱ	1.5	22.3	4.7	28.5	62.9	3.4	5.2
2. ~じゃん	2.9	14.9	8.1	25.9	50.7	14.0	9.4
3. プツン	1.5	11.1	12.6	25.2	50.3	15.0	9.5
4. いいとも	1.2	12.8	9.7	23.7	53.2	9.4	13.7
5. オシャレ	2.1	7.1	14.0	23.2	55.1	9.7	12.0
6. やばい	4.7	14.1	3.7	22.5	60.9	11.5	5.1
7. チクる	4.6	4.5	4.0	13.1	42.8	30.9	13.2
8. マック	3.4	2.1	7.6	13.1	40.8	12.1	34.0
9. タイマン	8.4	1.4	3.1	12.9	38.9	32.2	16.0
10. ママチャリ	2.3	4.6	5.0	11.9	38.0	14.0	36.1
11. マブい	2.8	1.0	6.2	10.0	33.8	22.7	33.5
12. シカトする	2.8	2.8	2.5	8.1	42.5	29.6	19.8
13. すぐれもの	1.3	2.5	3.0	6.8	46.1	13.0	34.1
14. まじぼん	0.8	0.7	2.5	4.0	32.7	20.8	42.5
15. チンケ	0.7	0.7	1.5	2.9	41.7	18.5	36.9



(図7) 流行語への感じ方×性

→女子は「オシャレ」「～じゃん」がカッコいい



### 3. 流行語への評価

このように生徒たちは、流行語をつかえばシャレているということもないが、かといって、つかうと悪いこともない。ほどほどにつかえばよいと思っている。そこで流行語をつかうことへの評価をトータルとしてたずねると、図8以下のような結果となる。

図8は流行語をいち早く持ち込む子はどんなタイプなのかをたずねたものだが、スポーツが得意で、服装のセンスがよいかもしいないが、まじめな努力家で生活がきちんとしているとはいえないだろうという。

そして、学年別では1年が流行語を持ち込む子を高く評価しているのに対し、3年にな

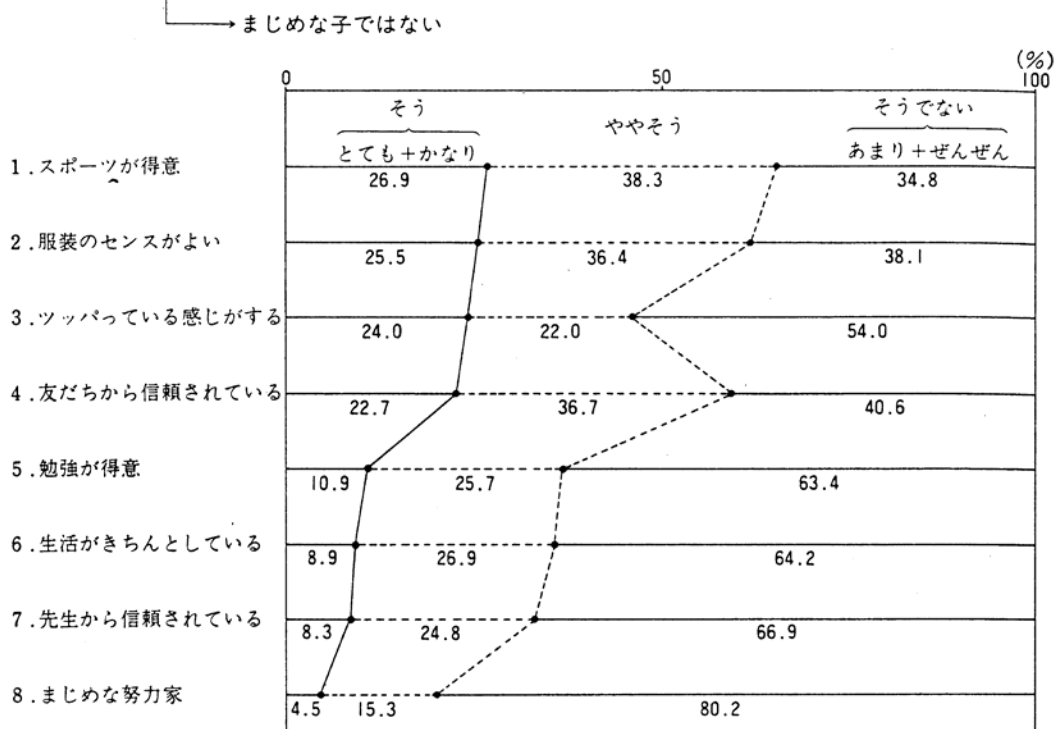
ると、もっとひややかに流行語をみつめている(表7)。

それでは、流行語をつかわない子はどんなタイプなのか。図9のように、まじめな努力家で生活がきちんとしているという。

そこで、図8と図9とを対比し、流行語を持ち込む子とつかわない子とのプロフィールをひとつにまとめてみると、図10の通りとなる。つまり、両者は「まじめな努力家」かどうかで著しい対比を示している。

まじめな子は流行語を持ち込んだり、人より早くつかうものではないという見方である。そうした傾向を裏書きするように、言葉

(図8) 流行語を持ち込む子



づかひの荒い子は、図11から明らかなように、スポーツが得意かもしれないが、ツッパっている子どもだと、生徒たちは考えている。

このように見てくると、生徒たちも言葉づかひを大事に考えており、少なくとも言葉の乱れが、それほどほめられるものではないと

思っているのがわかる。

そして、当然のことながら言葉が乱れたら、父や母や先生は注意するだろうと、生徒たちは思っている(図12)。特に、女子たちは言葉づかひの乱れを、親たちから注意されることが多いと思っている(図13)。

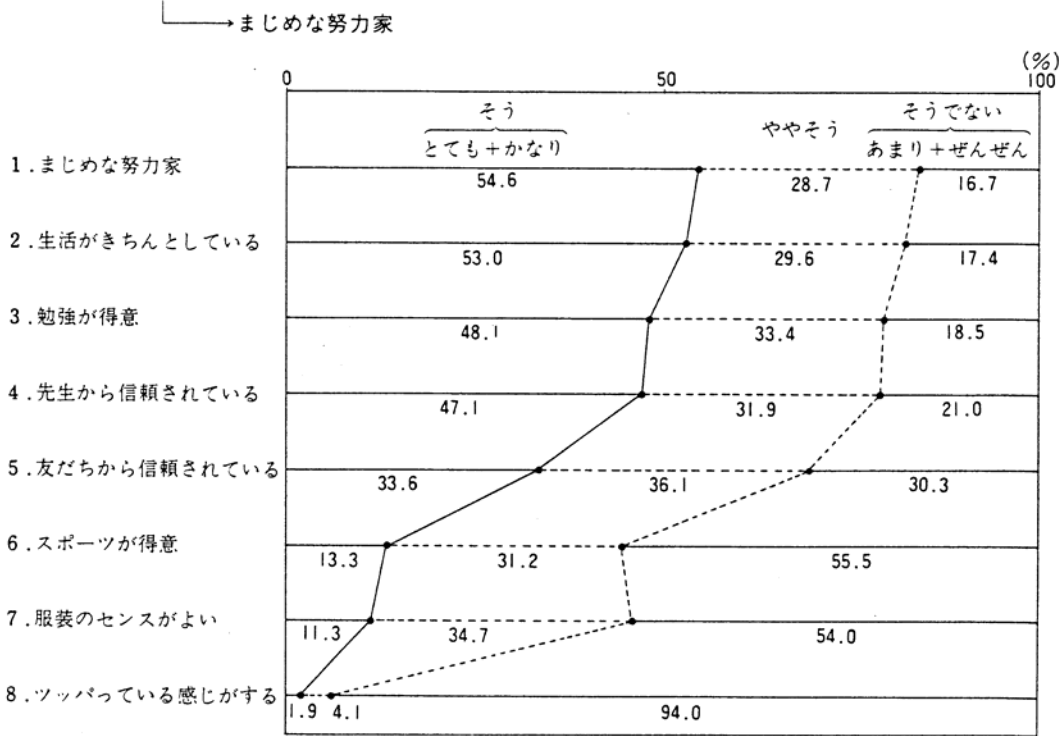
(表7) 流行語を持ち込む子×学年

→低学年のほうが評価がよい

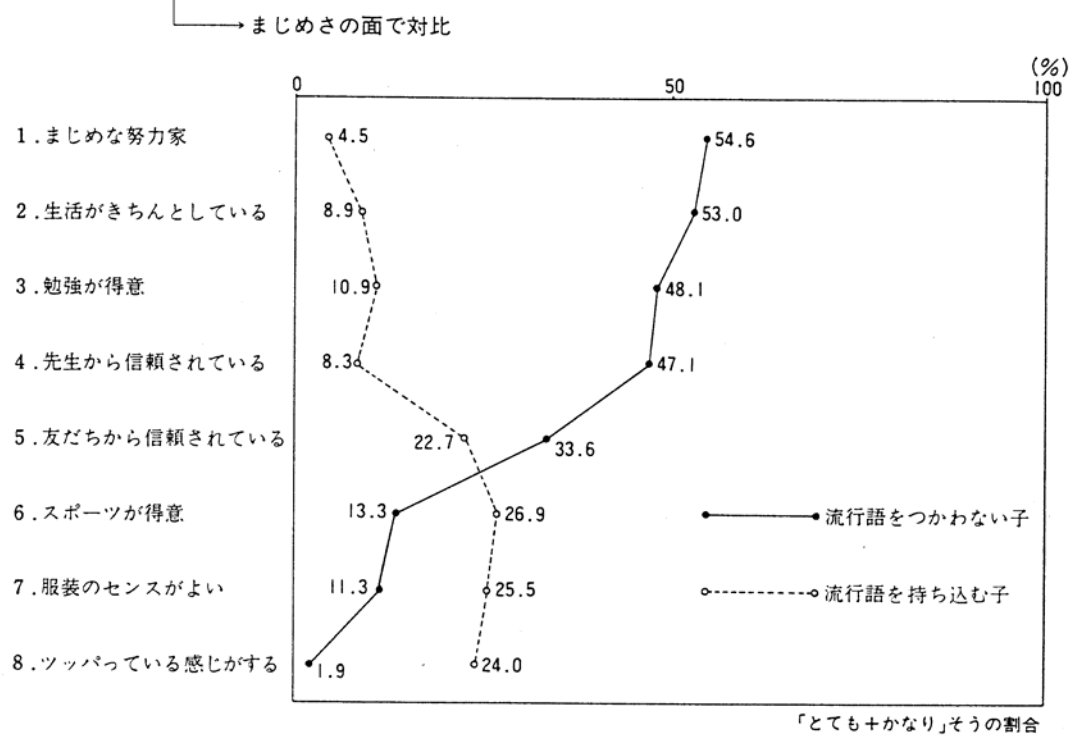
	(%)		
	1 年	2 年	3 年
1. スポーツが得意	$\frac{11.4}{20.5}$ 31.9	$\frac{9.8}{18.4}$ 28.2	$\frac{5.7}{12.8}$ 18.5
2. 服装のセンスがよい	$\frac{8.4}{17.9}$ 26.3	$\frac{9.2}{17.9}$ 27.1	$\frac{8.1}{14.8}$ 22.9
3. ツッパっている感じがする	$\frac{12.8}{13.7}$ 26.5	$\frac{10.6}{16.7}$ 27.3	$\frac{8.4}{8.4}$ 16.8
4. 友だちから信頼されている	$\frac{7.8}{20.1}$ 27.9	$\frac{4.7}{15.9}$ 20.6	$\frac{6.3}{12.5}$ 18.8
5. 勉強が得意	$\frac{3.7}{9.9}$ 13.6	$\frac{3.1}{5.9}$ 9.0	$\frac{4.2}{6.0}$ 10.2
6. 生活がきちんとしている	$\frac{4.4}{7.6}$ 12.0	$\frac{1.6}{4.5}$ 6.1	$\frac{3.1}{5.1}$ 8.2
7. 先生から信頼されている	$\frac{3.0}{6.2}$ 9.2	$\frac{1.0}{4.8}$ 5.8	$\frac{3.0}{7.5}$ 10.5
8. まじめな努力家	$\frac{1.6}{3.4}$ 5.0	$\frac{1.2}{1.6}$ 2.8	$\frac{1.8}{4.2}$ 6.0

「とても+かなり」その割合

(図9) 流行語をつかわない子

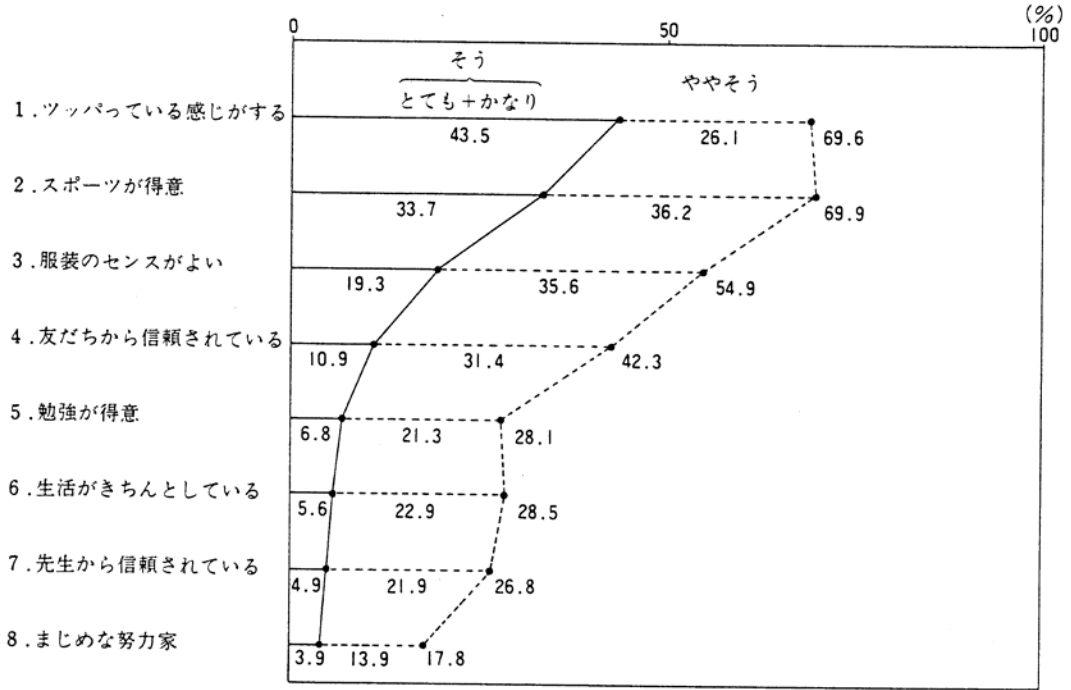


(図10) 流行語を持ち込む子・つかわない子



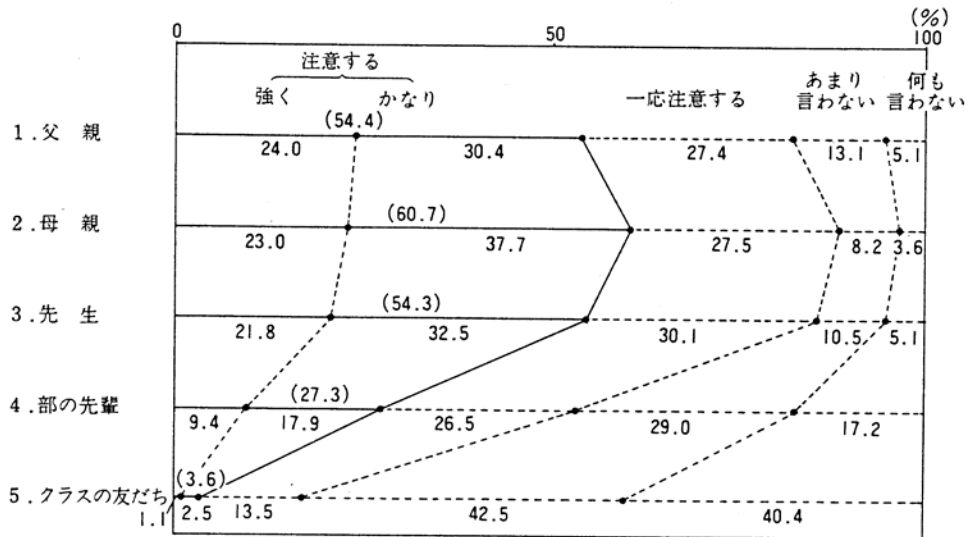
(図11) 言葉づかいの荒い子

ツツパっている感じ

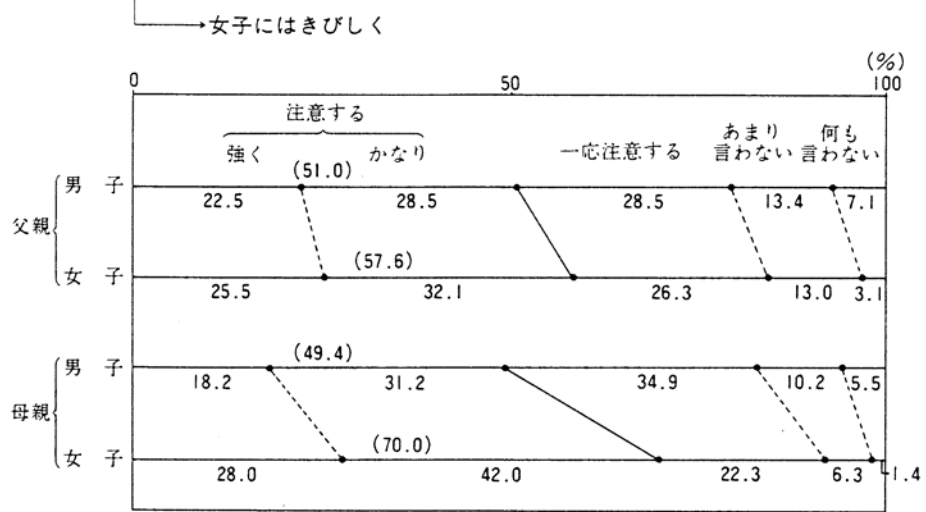


(図12) 言葉が乱れたら

おとなは注意するだろう



(図13) 言葉の乱れ×性



## ●まとめに代えて

つきつめていうと、言葉づかいはまじめさを象徴するものらしい。つまり、きちんとした言葉づかいをしている子はまじめだが、流行語をいち早く持ち込んでつかったりする子はまじめさに欠けるといふ。

となると、どの子もよい言葉づかいをしそうなものだが、この点は「まじめさ」の重みに関係してくる。

生徒たちにとっては、ふまじめすぎるのも困るが、まじめ一方の子は堅苦しすぎてつきあう気持ちになれない。もちろん、自分自身、友だちからまじめのかたまりと見られたくない。

そうなると、ふまじめすぎず、かといって、まじめすぎず、ほどほどのまじめさがよいことになる。そして、生徒たちの言葉づかいも、まじめさの程度を反映して、ほどほどにやわらかいものとなっているのはすでに述べた通りである。

生徒たちの言葉づかいが悪いと思って調査を始めてみたが、生徒たちはそれなりに自制した言葉づかいをしているのがわかった。

したがって、マクロにとらえた場合、生徒

たちを信じて、生徒の言葉づかいをそれほど気にする必要はないのかもしれない。そうはいうものの、生徒の言葉が乱れているのも否定しがたい。

しかし、そうした責任の一端は教師にもあるような気がする。生徒たちを見下して、乱雑な言葉づかいをする教師も少なくない。短い時間に多数の、しかも身勝手に生意気ざかりの生徒を相手にするので、ある程度までの乱雑さもやむをえない気がする。しかし、それに慣れてしまうと、ともすれば、度をこしがちになる。したがって人間同士として、生徒と接するさいの言葉づかいをどうしたらよいか。少なくとも生徒の氏名をよびすてにしない、あるいは、むやみに命令をしない、そして、授業の中ではきちんとした言葉づかいをする。一対一で会っているときは、生徒を対等に扱うなどの配慮が望まれよう。教師自身が言葉づかいのモデルを示し、そうした影響を生徒に及ぼしていく。そうした形の言語面での環境作りが望ましいように思われてならない。

● 資料1 調査票見本および集計表

単位はすべてパーセント

① あなたは、次の①～⑮のようなことばを、よく使いますか。

	いつも 使っている	かなり 使っている	ときどき 使っている	あまり 使っていない	ぜんぜん 使っていない
① チンケ	0.5	0.2	3.2	10.2	85.9
② やっぱ (やっぱり)	19.1	25.7	38.5	10.9	5.8
③ まじぼん	0.7	0.3	1.8	5.1	92.1
④ オシャレ	7.7	7.9	24.5	27.3	32.6
⑤ ママチャリ	5.2	4.6	7.9	6.5	75.8
⑥ プツン	6.8	14.5	32.5	23.8	22.4
⑦ タイマン	2.4	4.6	12.6	25.9	54.5
⑧ いいとも	1.6	4.1	14.8	32.5	47.0
⑨ やばい	24.0	29.2	28.5	12.4	5.9
⑩ マブい	1.1	1.5	4.6	12.2	80.6
⑪ すぐれもの	0.3	0.7	2.9	11.1	85.0
⑫ チクル	7.2	12.0	23.4	22.8	34.6
⑬ マック (マクドナルド)	1.3	1.8	4.7	7.8	84.4
⑭ 〜じゃん	13.8	14.2	22.0	21.5	28.5
⑮ シカトする	5.0	8.3	19.5	21.7	45.5

② あなたは、友だちが①～⑮のようなことばを使っているのを聞くと、どんな気持ちになりますか。1～6のうち、あてはまるものに○をつけてください。

	カッコいい と思う	親しみやすい と思う	シャレて いると思う	何とも 思わない	使わなければ よいのに と思う	その他
① チンケ	0.7	0.7	1.5	41.7	18.5	36.9
② やっぱ (やっぱり)	1.5	22.3	4.7	62.9	3.4	5.2
③ まじぼん	0.8	0.7	2.5	32.7	20.8	42.5
④ オシャレ	2.1	7.1	14.0	55.1	9.7	12.0



	カッコいい と思う	親しみやすい と思う	シャレして いると思う	何とも 思わない	使わなければ よいのにと 思う	その他
⑤ ママチャリ	2.3	4.6	5.0	38.0	14.0	36.1
⑥ ブツン	1.5	11.1	12.6	50.3	15.0	9.5
⑦ タイマン	8.4	1.4	3.1	38.9	32.2	16.0
⑧ いいとも	1.2	12.8	9.7	53.2	9.4	13.7
⑨ やばい	4.7	14.1	3.7	60.9	11.5	5.1
⑩ マブい	2.8	1.0	6.2	33.8	22.7	33.5
⑪ すぐれもの	1.3	2.5	3.0	46.1	13.0	34.1
⑫ チクる	4.6	4.5	4.0	42.8	30.9	13.2
⑬ マック (マクドナルド)	3.4	2.1	7.6	40.8	12.1	34.0
⑭ 〜じゃん	2.9	14.9	8.1	50.7	14.0	9.4
⑮ シカトする	2.8	2.8	2.5	42.5	29.6	19.8

③ あなたのクラスや友だちの中に、テレビなどの流行語や、新しい言い方をもちこんでくる子がいると思います。その子は、どんな生徒ですか。

	とても そう	かなり そう	やや そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
① スポーツが得意	9.3	17.6	38.3	25.0	9.8
② まじめな努力家	1.5	3.0	15.3	40.1	40.1
③ 勉強が得意	3.6	7.3	25.7	39.9	23.5
④ 友だちから信頼されている	6.2	16.5	36.7	28.0	12.6
⑤ 服装のセンスがよい	8.5	17.0	36.4	22.9	15.2
⑥ 先生から信頼されている	2.3	6.0	24.8	44.1	22.8
⑦ ツッパっている感じがする	10.7	13.3	22.0	25.2	28.8
⑧ 生活がきちんとしている	3.1	5.8	26.9	40.2	24.0

● 資料1 調査票見本および集計表

④ ③とは逆に、流行語などはあまり使わず、ことばづかいがていねいな子もいます。その子は、どんな生徒ですか。

	とても そう	かなり そう	やや そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
① スポーツが得意……………	4.4	8.9	31.2	40.8	14.7
② まじめな努力家……………	21.2	33.4	28.7	11.6	5.1
③ 勉強が得意……………	20.4	27.7	33.4	14.1	4.4
④ 友だちから信頼されている	11.6	22.0	36.1	22.0	8.3
⑤ 服装のセンスがよい……………	3.6	7.7	34.7	37.0	17.0
⑥ 先生から信頼されている……	16.8	30.3	31.9	14.3	6.7
⑦ ツッパっている感じがする	1.3	0.6	4.1	22.6	71.4
⑧ 生活がきちんとしている……	22.6	30.4	29.6	10.3	7.1

⑤ あなたのクラスや友だちの中にも、ことばづかいの乱暴な子がいると思います。その子は、どんな生徒ですか。

	とても そう	かなり そう	やや そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
① スポーツが得意……………	11.3	22.4	36.2	22.9	7.2
② まじめな努力家……………	1.7	2.2	13.9	48.8	33.4
③ 勉強が得意……………	2.6	4.2	21.3	49.3	22.6
④ 友だちから信頼されている	3.1	7.8	31.4	42.8	14.9
⑤ 服装のセンスがよい……………	6.2	13.1	35.6	32.2	12.9
⑥ 先生から信頼されている……	1.7	3.2	21.9	51.3	21.9
⑦ ツッパっている感じがする	19.9	23.6	26.1	17.4	13.0
⑧ 生活がきちんとしている……	2.4	3.2	22.9	50.6	20.9

⑥ あなたは、これから先、どんな人生を送るだろうと思いますか。

	とても 無理	かなり 無理	やや 無理	やや できる	かなり できる	きつと できる
① 望みどおりの高校に入れる	6.5	11.5	31.2	36.1	6.2	8.5
② 望みどおりの大学に入れる	21.6	18.4	33.1	19.8	2.7	4.4
③ 望みどおりの仕事につける	5.8	9.6	31.1	35.1	7.8	10.6
④ いい恋人とめぐりあえる	12.4	11.0	26.7	24.2	7.0	18.7
⑤ しあわせな家庭をつくれる	6.0	5.9	17.1	37.4	12.9	20.7
⑥ 仕事の面でうまくいく	3.7	5.2	18.6	47.2	12.9	12.4
⑦ 子どもがうまく育つ	5.6	5.8	16.7	38.5	14.9	18.5
⑧ お金がもうかる	5.0	7.7	30.7	34.4	10.5	11.7
⑨ 人々から尊敬される	8.5	9.5	36.2	30.6	6.7	8.5
⑩ 社会的に大きな活やくをする	17.7	20.7	35.9	15.3	4.8	5.6
⑪ 年をとってからもしあわせに暮らす	4.3	4.1	15.4	37.7	13.6	24.9

⑦ 1) あなたは1日平均、テレビをどれくらい見ますか(月～金、何かしながら見ている時間は含みません)。

ほとんど 見ない	30分以内	31分～ 1時間未満	1時間～ 2時間未満	2時間～ 3時間未満	3時間 以上
2.4	4.7	15.5	37.8	23.8	15.8

2) どんな番組を見ますか。

	よく 見る	ときどき 見る	たまに 見る	めったに 見ない	ほとんど 見ない
① 歌番組 (「ザ・ベストテン」「夜の ヒットスタジオ」など)	31.0	23.1	18.2	10.0	17.7
② スポーツ番組 (プロ野球、バレーボール の中継など)	29.5	21.9	20.7	12.3	15.6
③ クイズ番組 (「世界まるごとHOWマ ッチ」「クイズ100人に聞 きました」など)	15.8	22.0	29.6	16.5	16.1

● 資料1 調査票見本および集計表

	よく 見る	ときどき 見る	たまに 見る	めったに 見ない	ほとんど 見ない
④ ニュース・報道番組 (「ニュースステーション」 「スーパータイム」など)	21.9	23.3	29.5	15.2	10.1
⑤ 映画 (「金曜ロードショー」「日 曜洋画劇場」など)	23.9	21.1	22.7	15.4	16.9
⑥ 時代劇 (「独眼竜政宗」「江戸を斬 る」など)	21.6	16.8	17.2	19.0	25.4
⑦ ドラマ (「スケバン刑事Ⅲ」「アリ エスの乙女たち」など)	41.5	19.4	13.1	9.5	16.5
⑧ バラエティショー (「笑っていいとも増刊号」 「オレたちひょうきん族」 など)	38.8	25.3	17.9	7.7	10.3
⑨ アニメ番組 (「北斗の拳2」「めぞん一 刻」など)	46.0	18.7	16.7	8.1	10.5

3) いちばん好きな、テレビ番組と歌、アイドル、気に入っている芸能人の名前をひとつ  
(1人)ずつ書いてください。

- ① 好きなテレビ番組…………… ( )
- ② 好きな歌…………… ( )
- ③ 好きなアイドル…………… ( )
- ④気に入っている芸能人…………… ( )

⑧ あなたは、次のようなことにどれくらい自信がありますか。

〈あなたの〉	ぜんぜん 自信がない	あまり 自信がない	ふつう	やや 自信がある	とても 自信がある
① 数学の成績……………	21.9	33.6	26.9	15.2	2.4
② 英語の成績……………	18.1	24.5	28.2	22.4	6.8
③ 運動神経……………	15.1	20.3	31.9	21.6	11.1

〈あなたの〉	ぜんぜん 自信がない	あまり 自信がない	ふつう	やや 自信がある	とても 自信がある
④ 体のじょうぶさ……………	3.5	14.8	36.8	24.7	20.2
⑤ 人の前で発表する力……………	16.2	39.6	27.7	11.7	4.8
⑥ 歌手やタレントの名前にくわしい……………	21.3	24.6	35.1	13.3	5.7
⑦ 「ファミコン」などのテレビゲームがうまい……………	33.0	23.4	26.7	10.6	6.3
⑧ 上手なイラストやまんがをかく……………	32.1	29.2	24.4	9.7	4.6
⑨ まわりの人を楽しくさせる……………	10.0	20.8	42.9	17.2	9.1
⑩ 誰からも好かれる……………	11.3	29.2	48.6	8.4	2.5
⑪ 人に親切にする……………	5.5	18.9	51.1	19.3	5.2
⑫ どんな苦しさにもくじけない力……………	10.3	29.4	39.9	14.4	6.0
⑬ きまりを守る態度……………	9.8	30.2	41.1	14.7	4.2

⑨ 次に、あなたのことばづかいについておたずねします。

① あなたは、ことばづかいのよいほうだと思いますか。

とても よいほう	かなり よいほう	やや よいほう	あまり よくないほう	ぜんぜん よくないほう
2.5	5.4	38.6	46.6	6.9

② あなたは、先生や目上の人に対して、敬語をうまく使えていると思いますか。

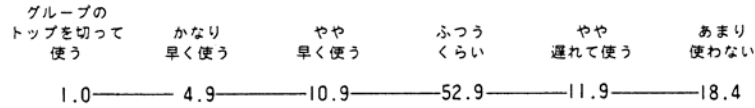
とても うまく使える	かなり うまく使える	やや うまく使える	あまり うまく使えない	ぜんぜん うまく使えない
4.2	10.8	47.0	34.7	3.3

③ あなたは、仲間のあいだで、ウケる話し方をするほうだと思いますか。

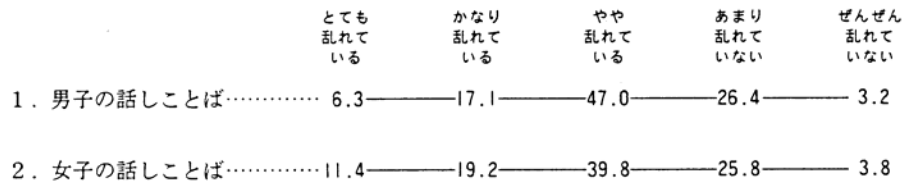
とてもうまく 話せる	かなり 話せる	やや 話せる	あまり 話せない	ぜんぜん 話せない
5.4	14.9	44.3	30.5	4.9

● 資料1 調査票見本および集計表

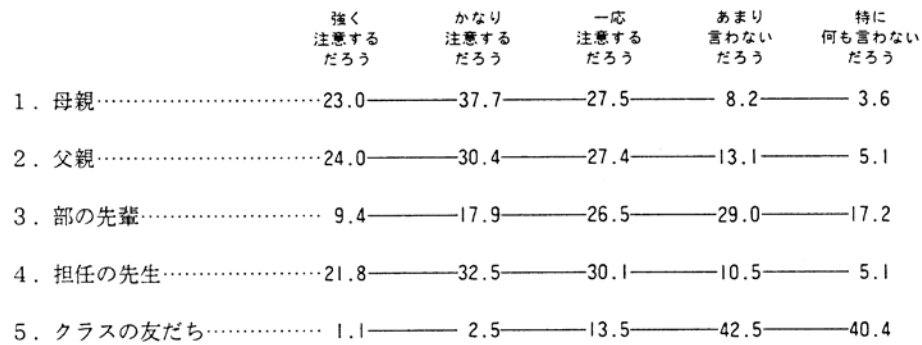
④ あなたは、仲間のあいだで、流行語をどれくらい早く使うほうですか。



⑤ 友だちの話していることばを聞いていて、話しことばが乱れていると思いますか。



⑥ あなたが乱れたことばづかいで話したら、誰がどれくらい注意すると思いますか。



⑦ このところ友だちのあいだで流行していることばの中で、気に入っているものと、(友だちは使っているが、品がなく)あなたとしては使いたくないものがあつたら、書いてください。

- 気に入って使っていることば…… ( )
- 使いたくなくて使わないことば…… ( )

⑩ あなたは、自分をどんな子だと思っていますか。

	まったく そう	かなり そう	やや ちがう	まったく ちがう
① ギンギンにツッパっていて、目立 っている子……………	1.1	3.7	27.7	67.5
② 成績がよくて、いつもトップクラ スにいるような子……………	2.5	9.0	35.6	52.9
③ 先生にいつもかわいがられたり、 ほめられたりしている子……………	1.5	6.4	48.5	43.6
④ おとなしいけれど、やさしくて、 シンがしっかりしている子……………	2.3	16.4	48.3	33.0
⑤ 口げんかでは誰にも負けない、理 屈っぽい子……………	5.5	19.2	45.9	29.4
⑥ ときにはバカみたいなことをして みんなを笑わせる、楽しい子……………	14.1	36.2	36.0	13.7
⑦ よく人から相談を受けて、みんな に頼られる、気持ちのあたたかい 子……………	4.3	18.6	53.3	23.8
⑧ みんながサボっているときも、一 人でコツコツがんばれる子……………	4.2	17.3	51.4	27.1
⑨ 小さなことにこだわらず、いやな ことも簡単に忘れられる子……………	10.1	24.9	43.1	21.9
⑩ みんなの先頭に立って新しいこと をはじめたりする子……………	4.1	12.3	48.3	35.3
⑪ 見るからにお嬢様やお坊ちゃまに 見える子……………	3.3	3.3	23.9	69.5
⑫ 人より考え方やすることが少し変 わっている子……………	8.6	20.4	46.1	24.9
⑬ むずかしいことを、いつも考えて いるような子……………	6.8	12.0	36.9	44.3

—— これで終わりです。長い間どうもありがとうございました。 ——